

大学生のキャリア意識調査 2007 調査結果概要の報告

報告者：中間 玲子
(福島大学人間発達文化学類)

調査計画の概要

調査における着眼点

- 大学生のキャリア形成を理解するには？
- 2種類の“ライフ”を見ていくことが重要
- 1) 日常生活という意味でのライフ
 - 学業、クラブ、サークル活動、アルバイト、ボランティア、趣味・娯楽
 - 学生の生活実態を把握する多くの大学生調査で用いられていた視点
- 2) 人生としてのライフ
 - 職業・進路選択、生き方、将来展望などの人生設計
 - 心理学研究では多く扱われてきたが、大学生調査で扱われることは多くなかった。

方法

- 調査目的
 - 大学1年生・3年生の大学生生活実態ならびにキャリア形成活動・将来設計・就職意識を把握し、当財団(財団法人電通育英会)の奨学事業の参考とする。
- 調査対象
 - 全国の4年制大学、医系・薬系6年生大学に通う1年生・3年生
 - (株)電通リサーチMILLIO-NETモニターより無作為抽出
- 調査方法
 - インターネットリサーチ、2007年11月8日～14日に実施
- 有効回収数
 - 大学1年生988人(男子:512、女子:476)
 - 大学3年生1025人(男子:563、女子:462)

今回の報告では

- 1. 人生、将来に対する意識
 - いつくらいから人生設計を始めたか
 - 将来の見通しを持っているか
- 2. 学生生活に対する意識およびその実態
 - 大学に対する意識
 - 学生生活の様相
- 3. 2つの“ライフ”の関連性

I . 仕事、人生に対する意識

いつから将来の仕事や人生設計を考 え始めたか(Q20)

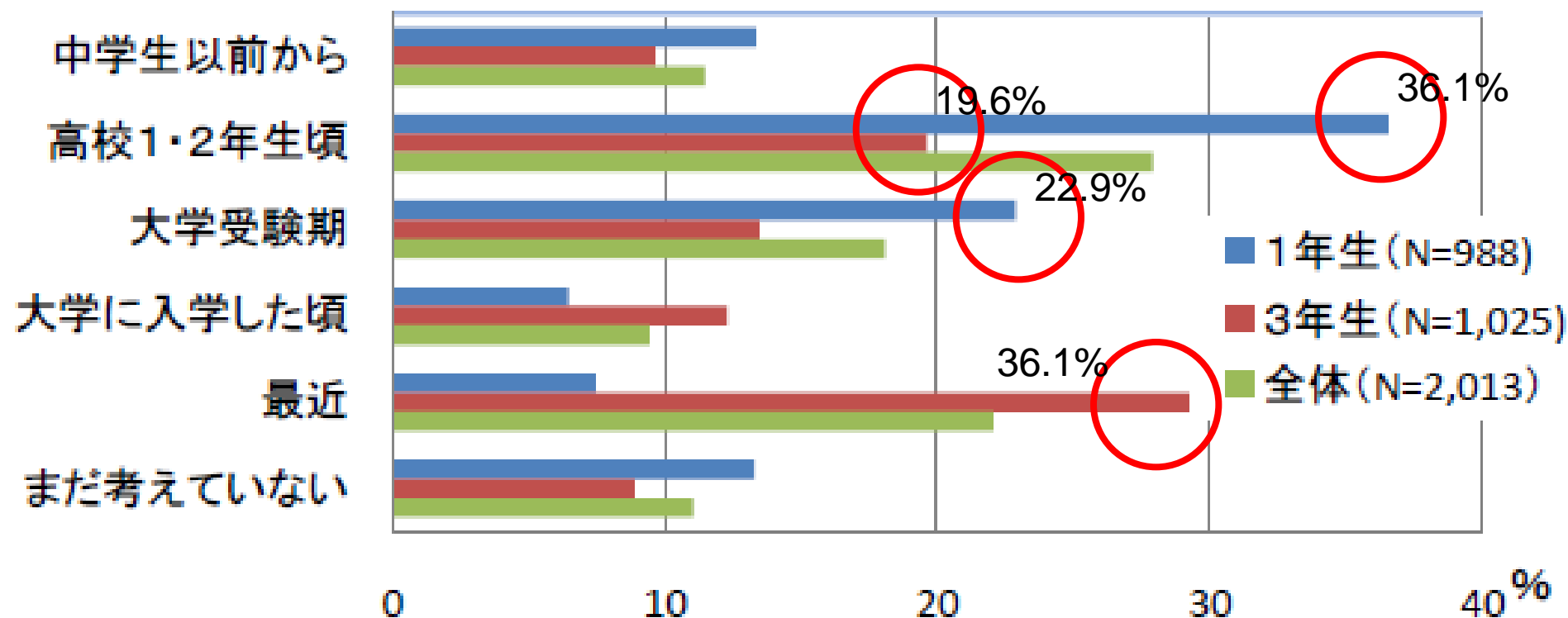


図20 将来の人生設計の開始時期

将来設計の程度(Q13)

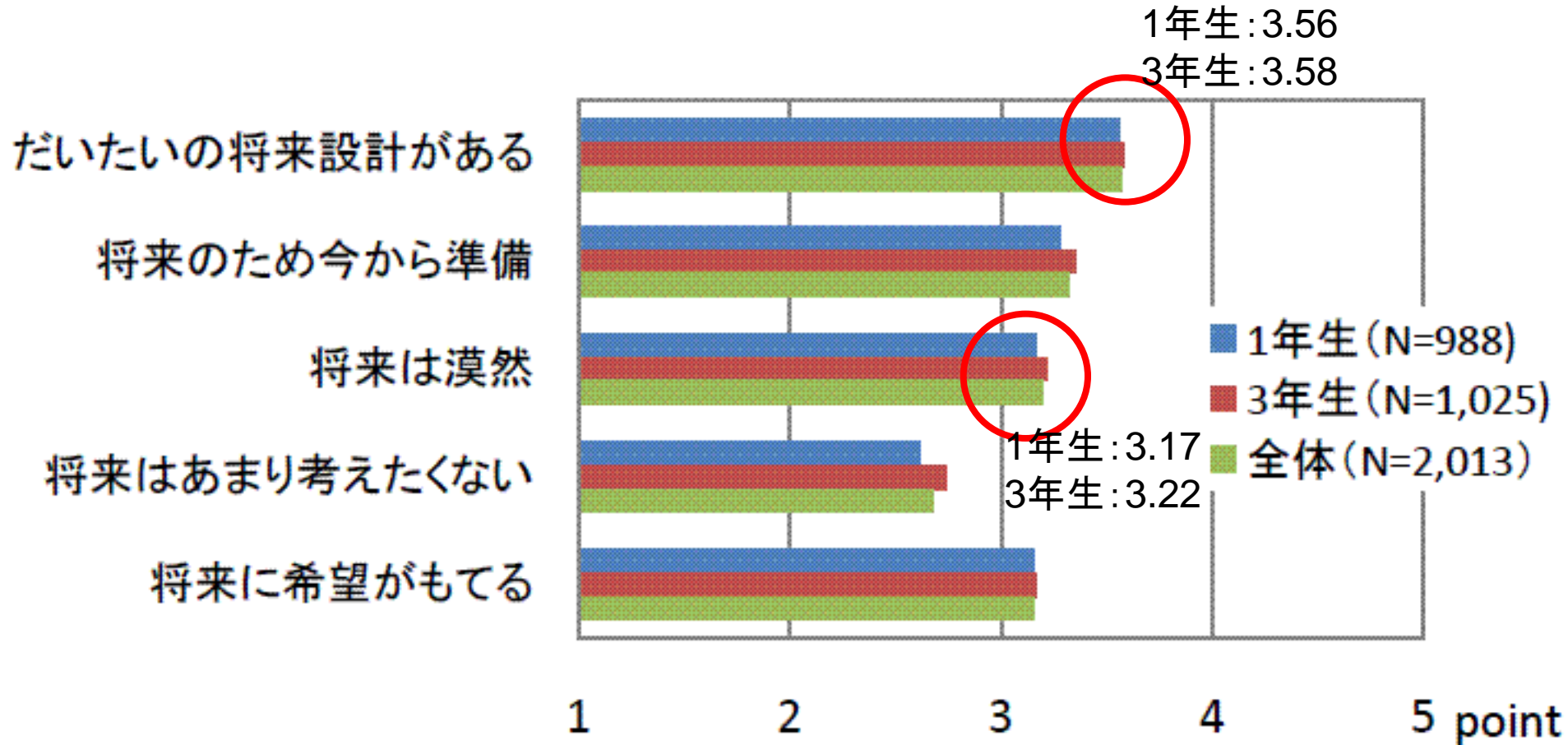


図13 将来設計の程度

将来の見通しとその実行(Q12-1)

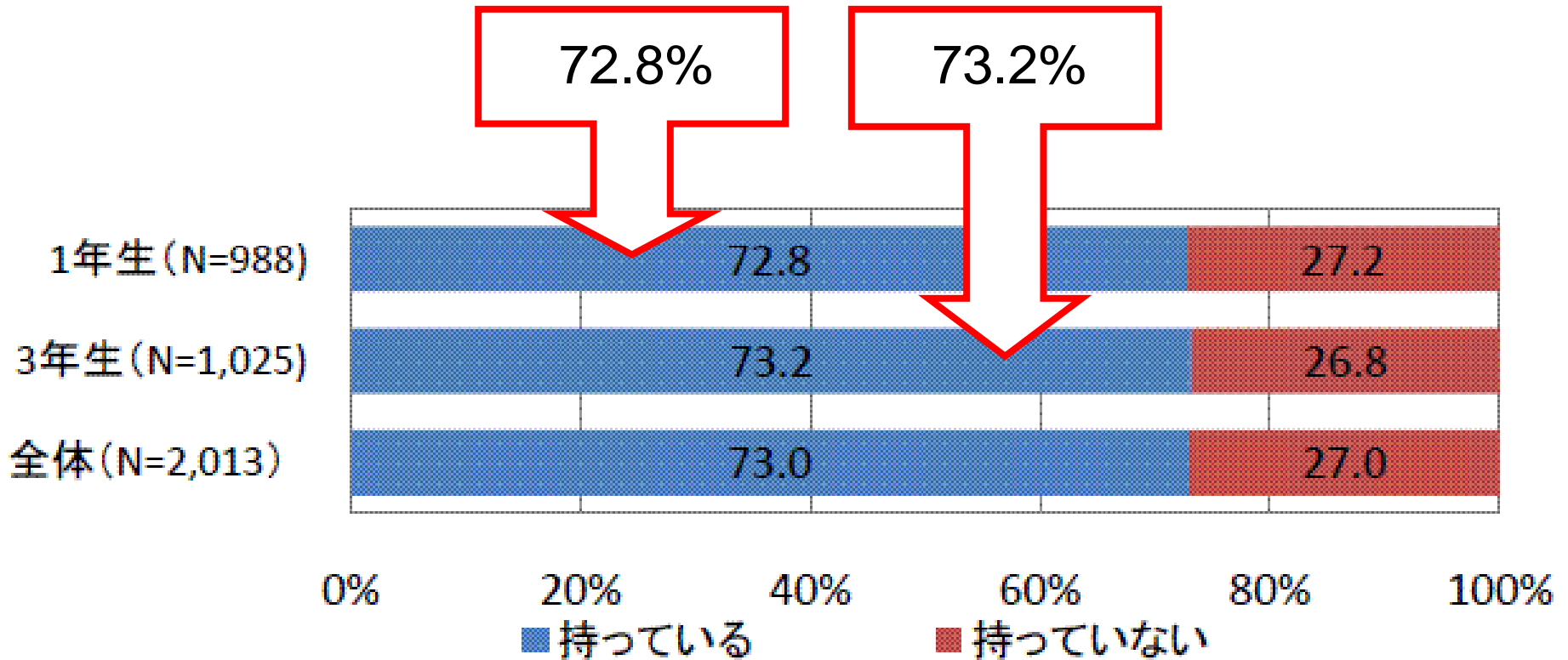


図12-1 将来の見通しを持っているか

将来見通しの実現への理解と実行の程度 (見通しを持っている者のみ)(Q12.2)

67.3%

61.7%

1年生(N=719)

32.7

54.2

13.1

3年生(N=750)

38.3

49.6

12.1

全体(N=1,469)

35.5

51.9

12.6

0%

20%

40%

60%

80%

100%

■ 何すべきか分かる・実行もしている

■ 何すべきか分かる・実行はできていない

■ 何をすべきかはまだ分からない

図12-2 将来見通しの実現への理解と実行(見通しを持っている者対象)

将来の見通しを求めているか (見通しを持っていない者のみ)(Q12-3)

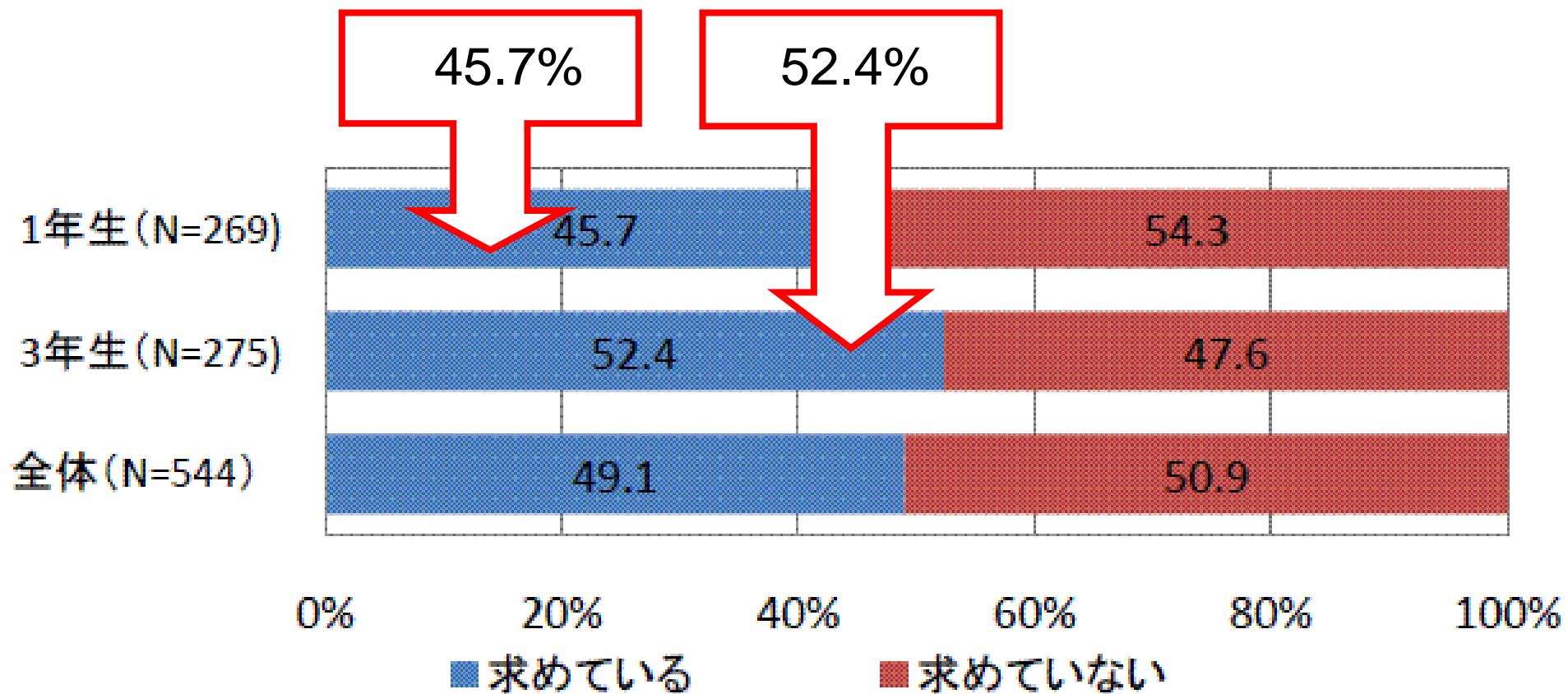


図12-3 将来見通しを求めているか(見通しを持っていない者対象)

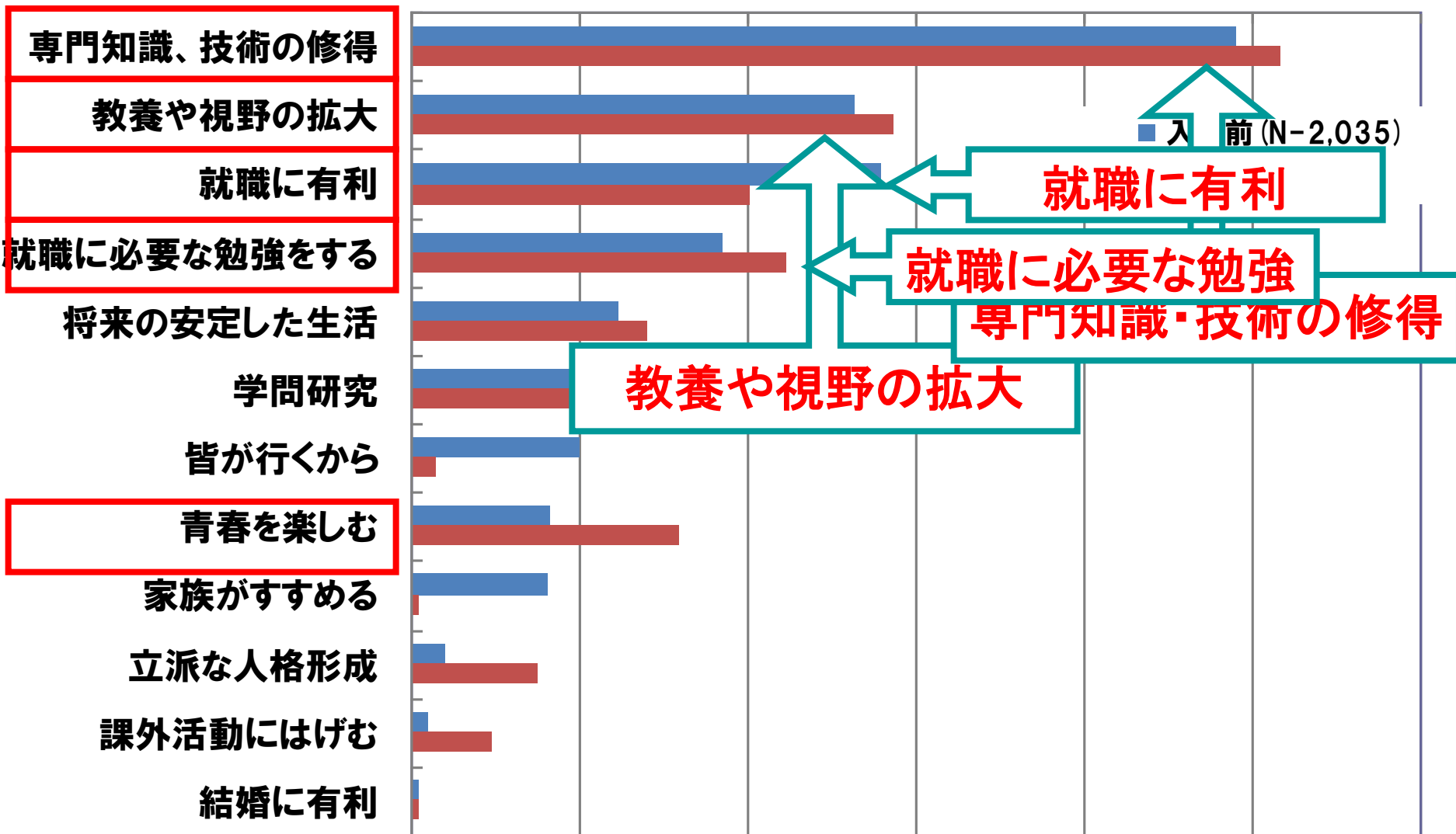
まとめ(I)

- 将来設計については
 - “「だいたいの将来設計はある」(1年生3.56、3年生3.58)が、「漠然としていてつかみどころがない」(1年生3.17、3年生3.22)”という意識が高い。
- 実際的な将来の見通しについては
 - 7割以上の学生が将来の見通しを持っている
 - しかし、6～7割の学生が「何をすべきかはわかっているが実行はできていない」あるいは「何をすべきかはまだわからない」と回答した(1年生67.3%、3年生61.7%)。

Ⅱ. 大学生生活に対する意識

大学進学「最」重要点(Q1)

0.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0 30.0



大学生生活の重点(Q7)

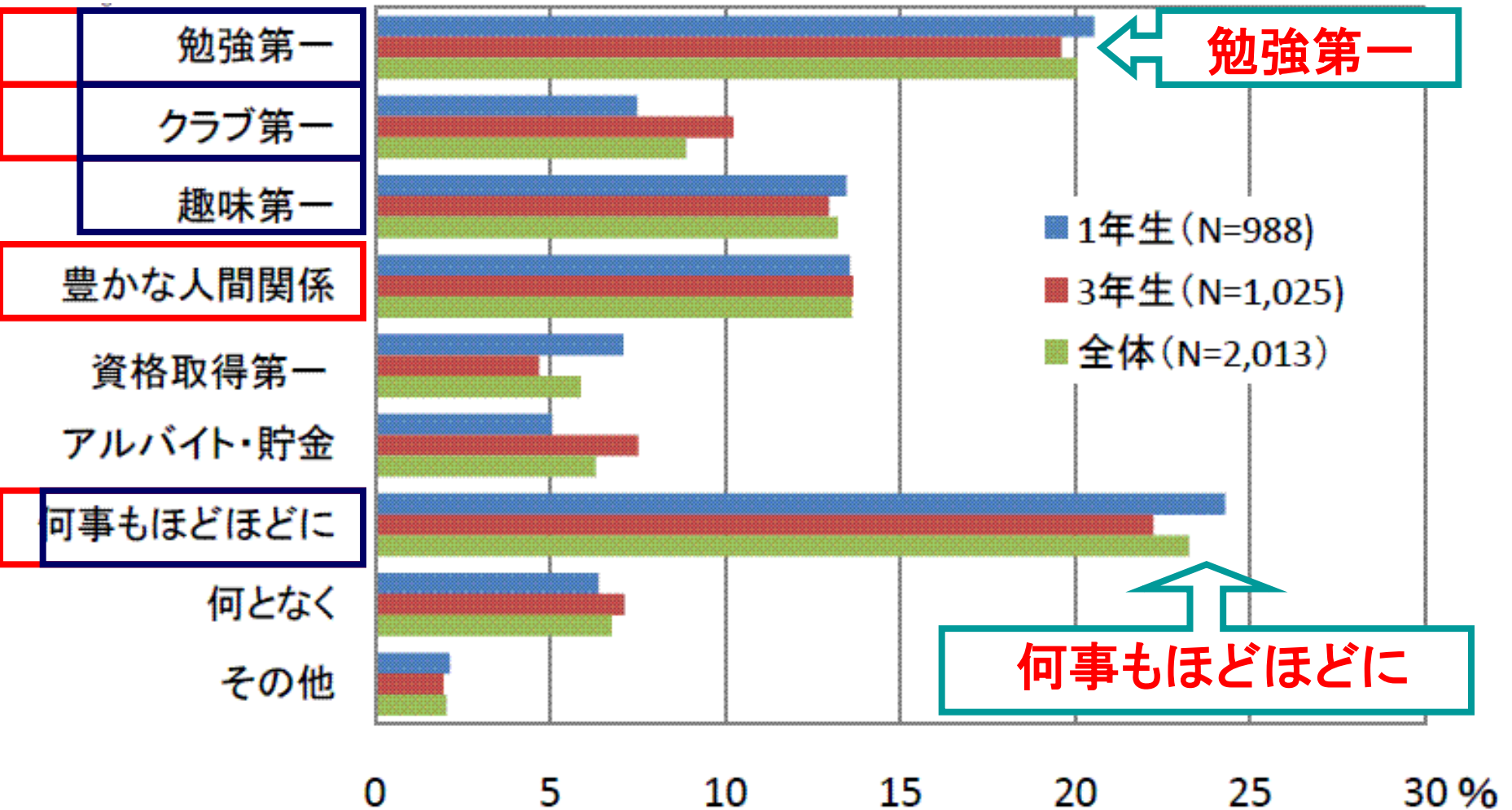
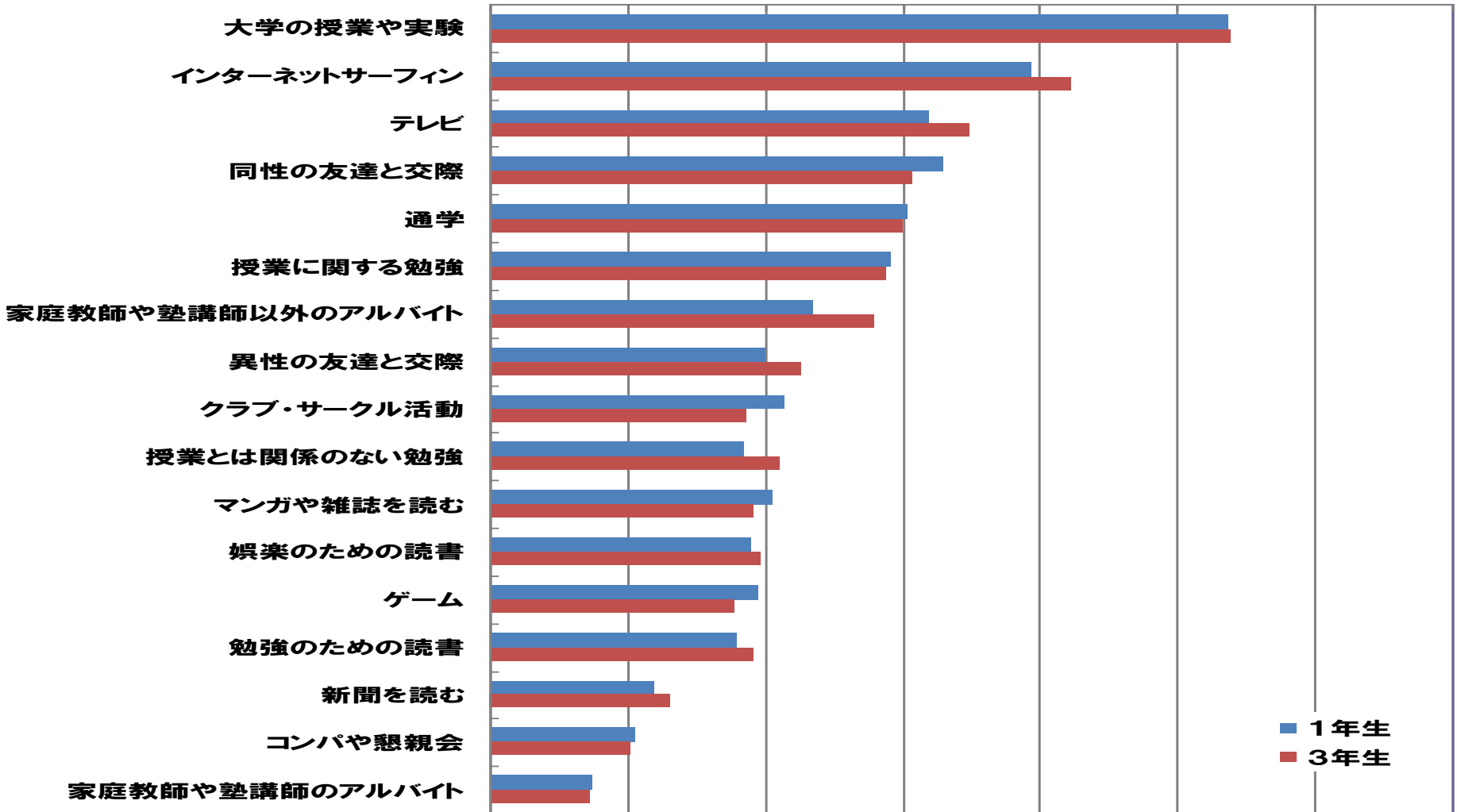
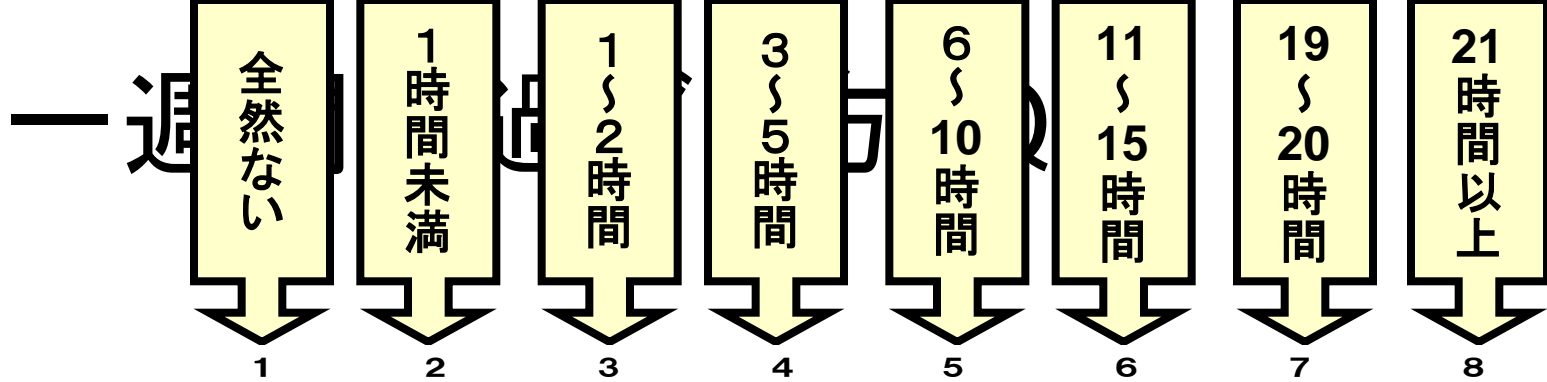
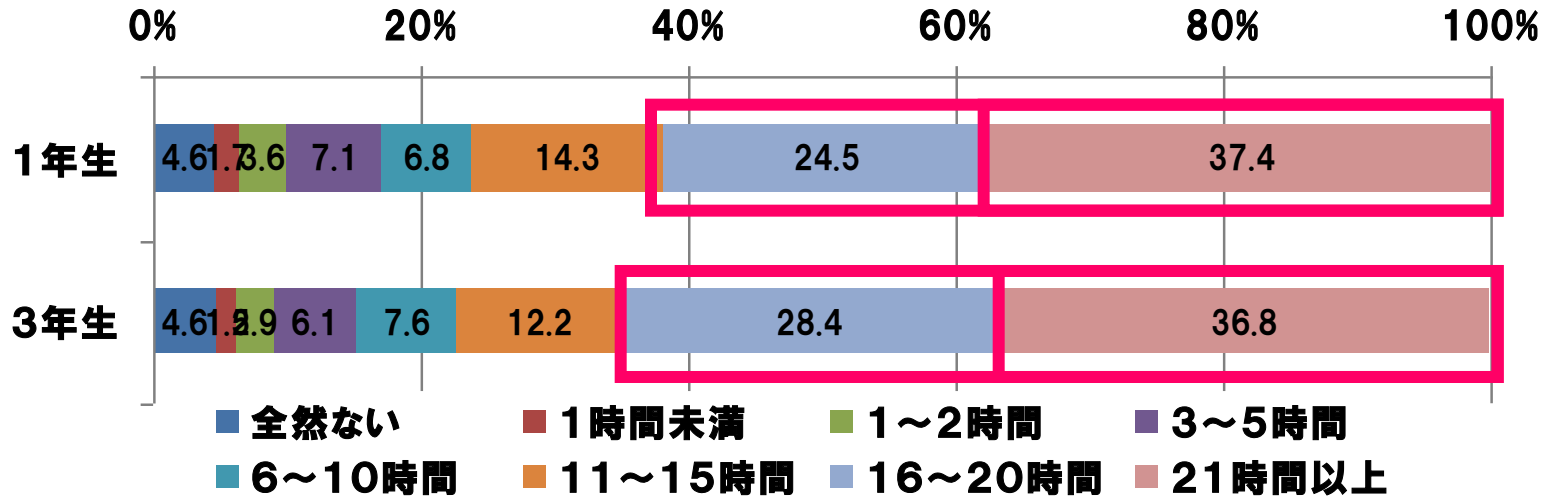


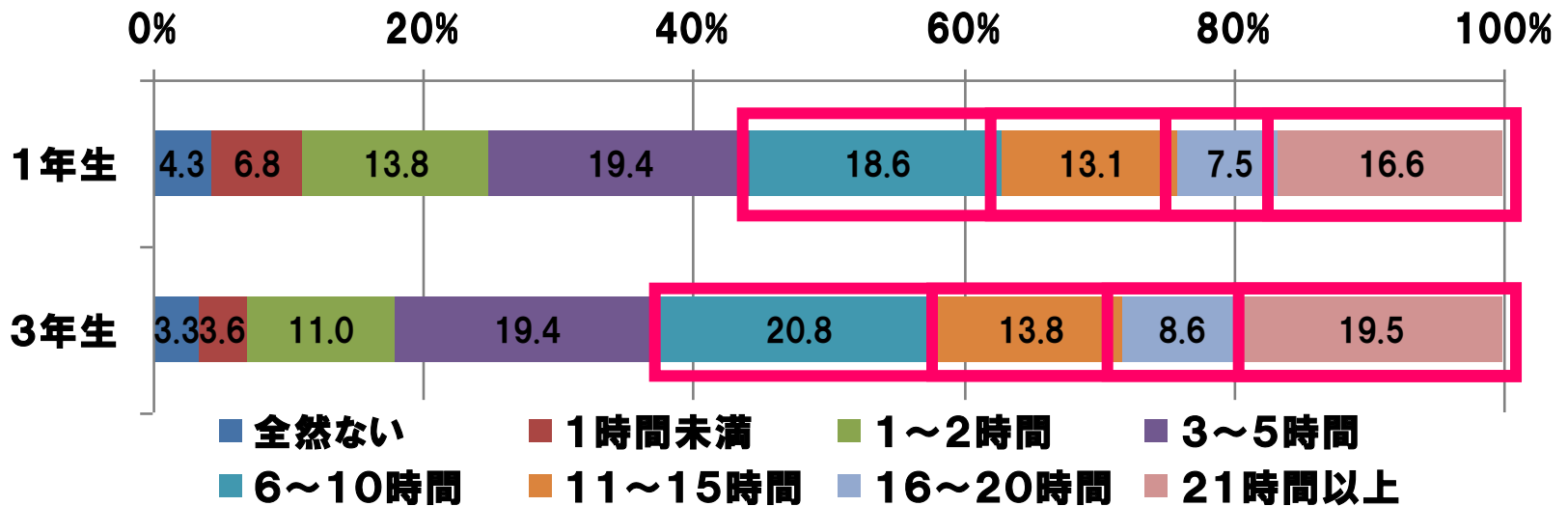
図7 大学生生活の重点



大学の授業や実験に参加

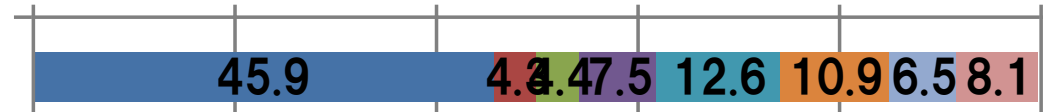


インターネットサーフィン



0% 20% 40% 60% 80% 100%

塾以外のアルバイト(1年生)



塾以外のアルバイト(3年生)



テレビ(1年生)



テレビ(3年生)



通学(1年生)



通学(3年生)



同性の友達と交際(1年生)

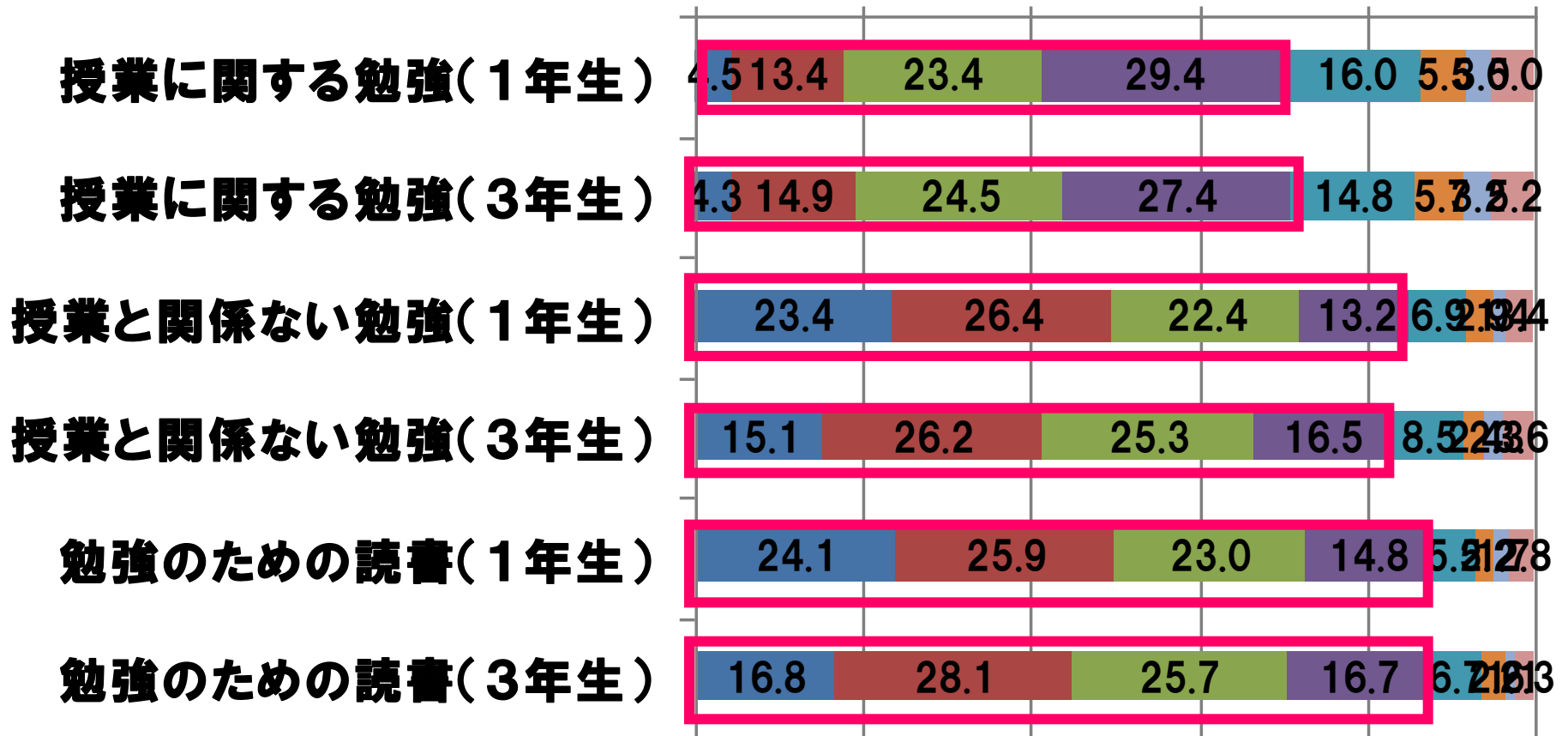


同性の友達と交際(3年生)



■ 全然ない ■ 1時間未満 ■ 1~2時間 ■ 3~5時間
■ 6~10時間 ■ 11~15時間 ■ 16~20時間 ■ 21時間以上

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 全然ない ■ 1時間未満 ■ 1~2時間 ■ 3~5時間
■ 6~10時間 ■ 11~15時間 ■ 16~20時間 ■ 21時間以上

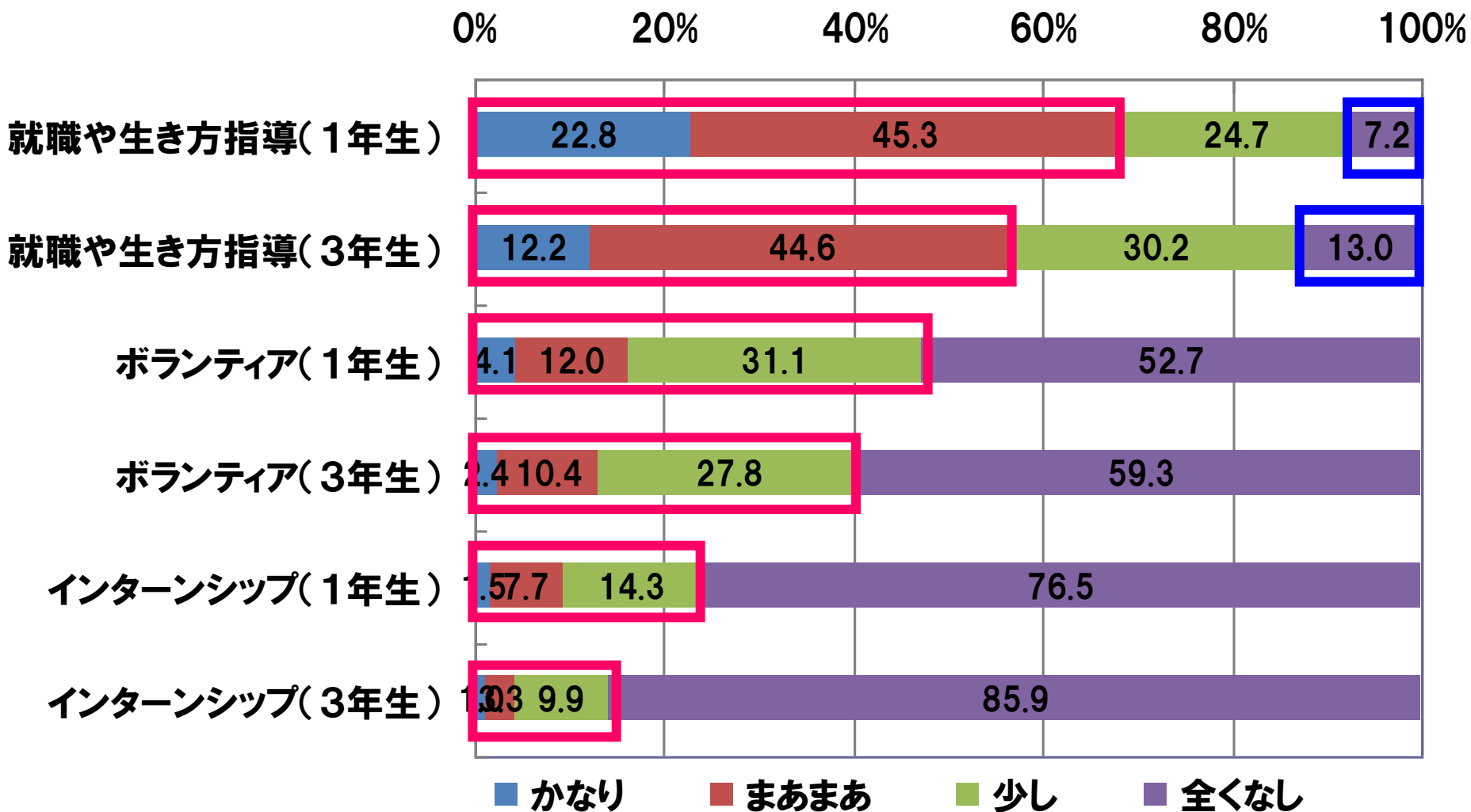
まとめ(Ⅱ)

- 大学進学の本重要点は
 - 入学前・現在ともに「専門知識・技術の修得」がもっとも多く目指されており、(入学前、24.5%、25.9%)、次いで多く見られたのが、「教養や視野の拡大」(入学前13.2%、現在14.4%)であった。
 - 「就職に有利」は入学前よりも現在において低下し(入学前14.0%、現在10.1%)、「就職に必要な勉強」は入学前よりも現在において増加(入学前9.3%、現在11.2%)。
- 大学生活では
 - 「何事もほどほどに」(1年生24.3%、3年生22.2%)を除くと「勉強第一」(1年生20.5%、3年生19.6%)が最も高い。
- 一週間の過ごし方では
 - 大学の授業や実験、インターネットサーフィンに費やす時間が多い。
 - 授業外学習(授業に関する予習、復習、宿題・課題など)を1日1時間もしない者は、1年生、3年生ともに7割を超す(1年生70.7%、3年生71.1%*「全然ない」~「3~5時間」の合算)。
 - 授業に関係のない勉強や読書については、1日1時間もしない者は、1年生、3年生ともに8割を超していた。

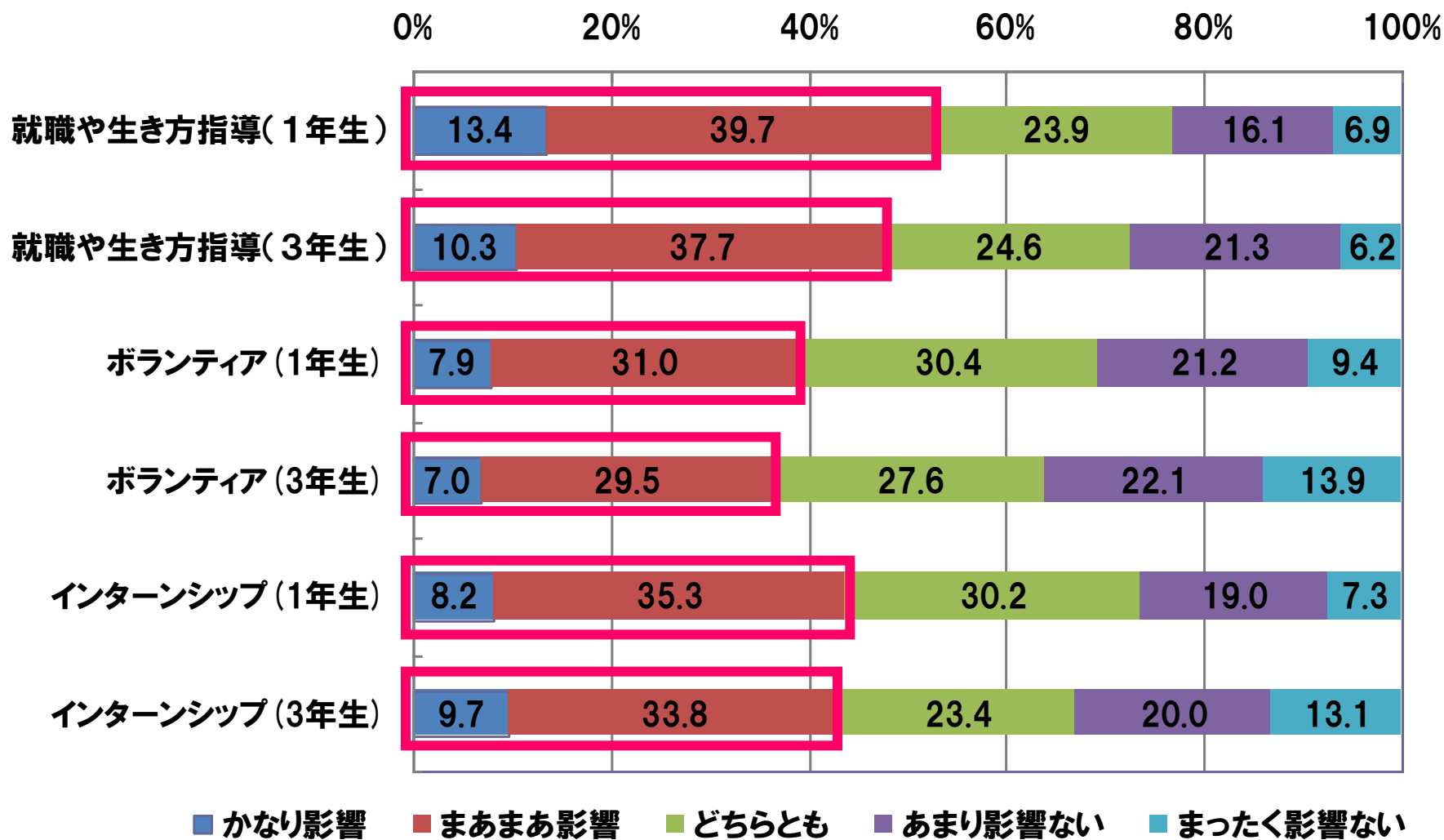
Ⅲ. 人生と生活との関係

1. 大学入学以前の経験は
キャリア形成に役立っているか？

中高までの、就職指導・ボランティア・インターンシップの経験



中高までの、就職指導・ボランティア・インターンシップ経験が自分に与えている影響



いつから将来の仕事や人生設計を考え始めたか(Q20)

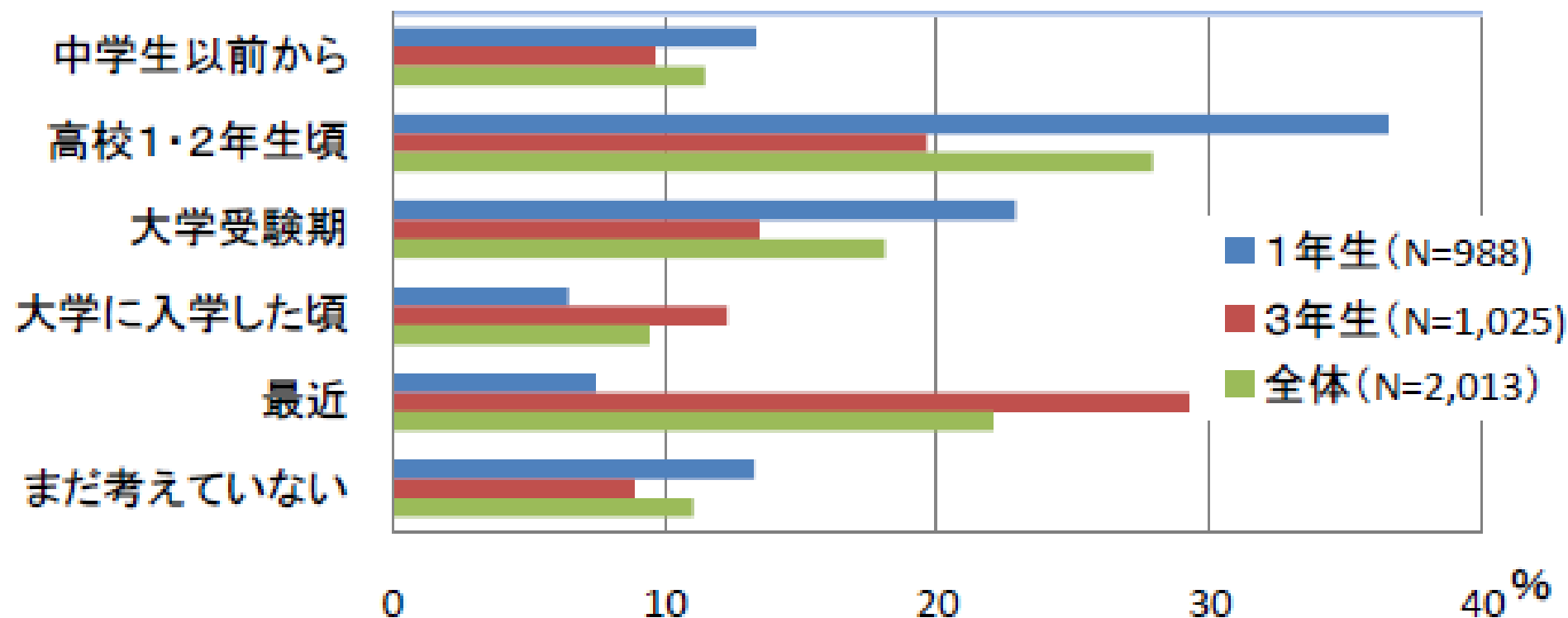
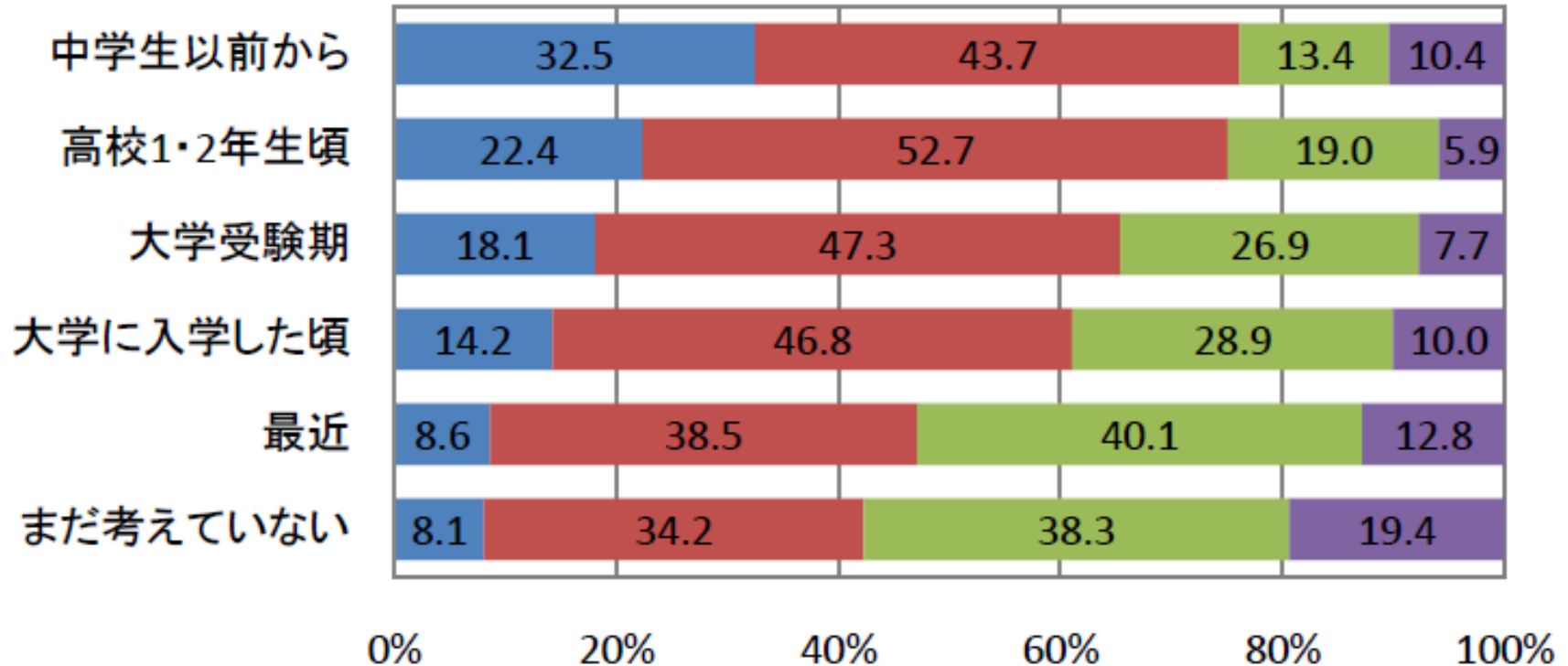


図20 将来の人生設計の開始時期

人生設計の開始時期と中高での進路指導(職業・将来)との関連

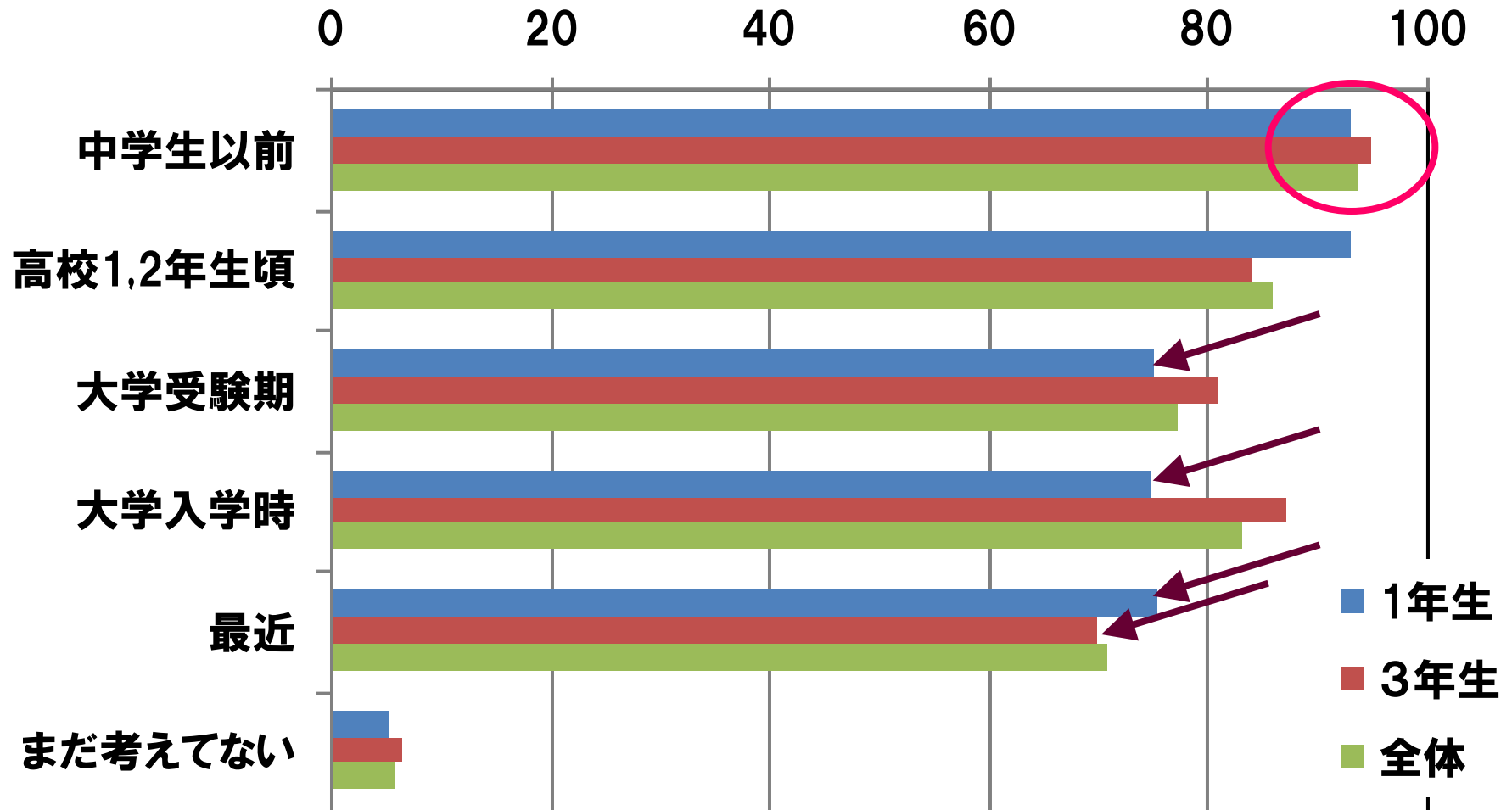


■ かなり与えられた ■ まあまあ与えられた ■ 少し与えられた ■ まったく与えられなかった

図1 将来の仕事や人生設計の開始時期(Q20)と中高校の進路指導(就職・将来)(Q11)との関連(全体N=2013)

2. 人生設計開始は
早い方がよいのか？

人生設計の開始時期と 将来の見通しをもつこととの関連



将来見通しの実現への理解と実行の程度 (見通しを持っている者のみ)(Q12-2)

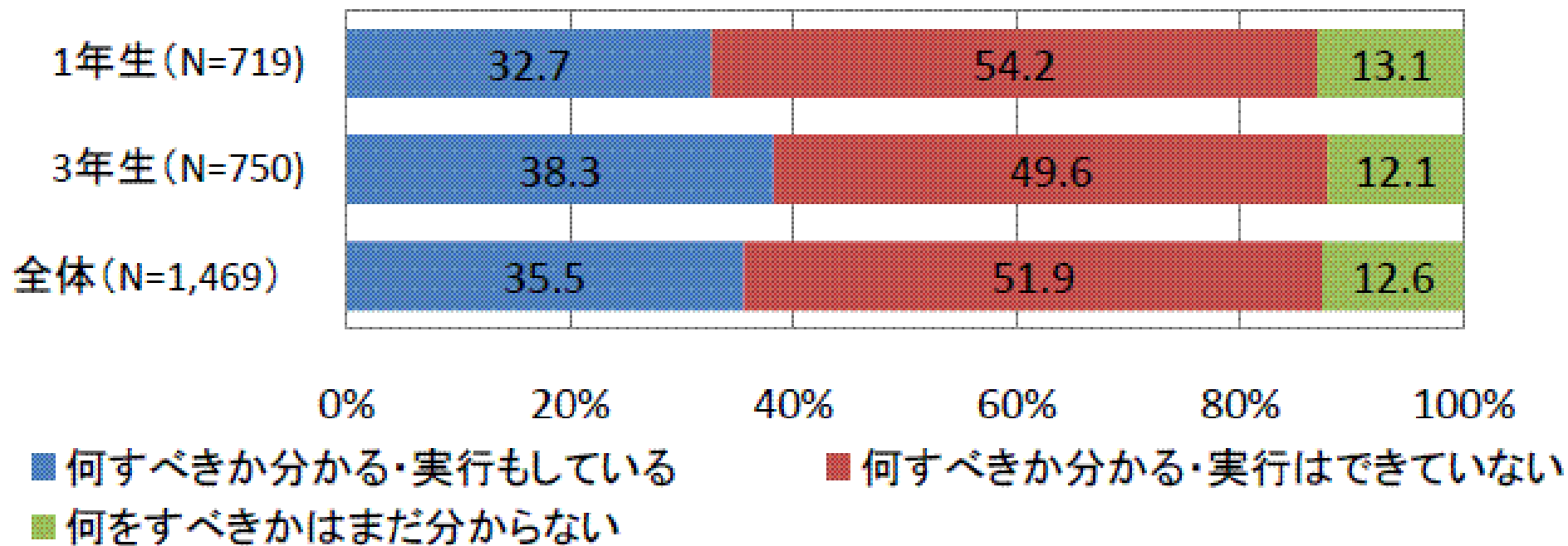
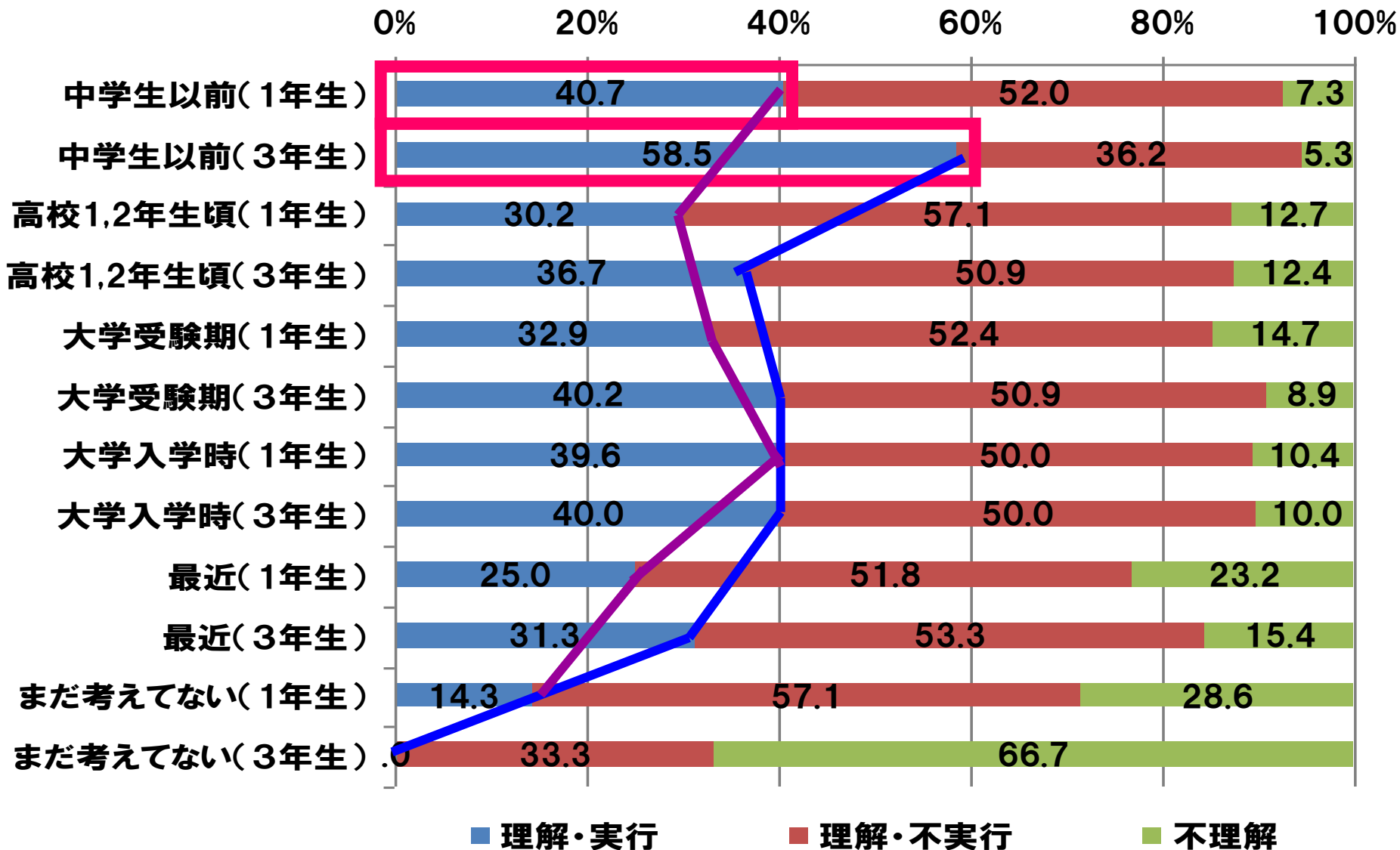


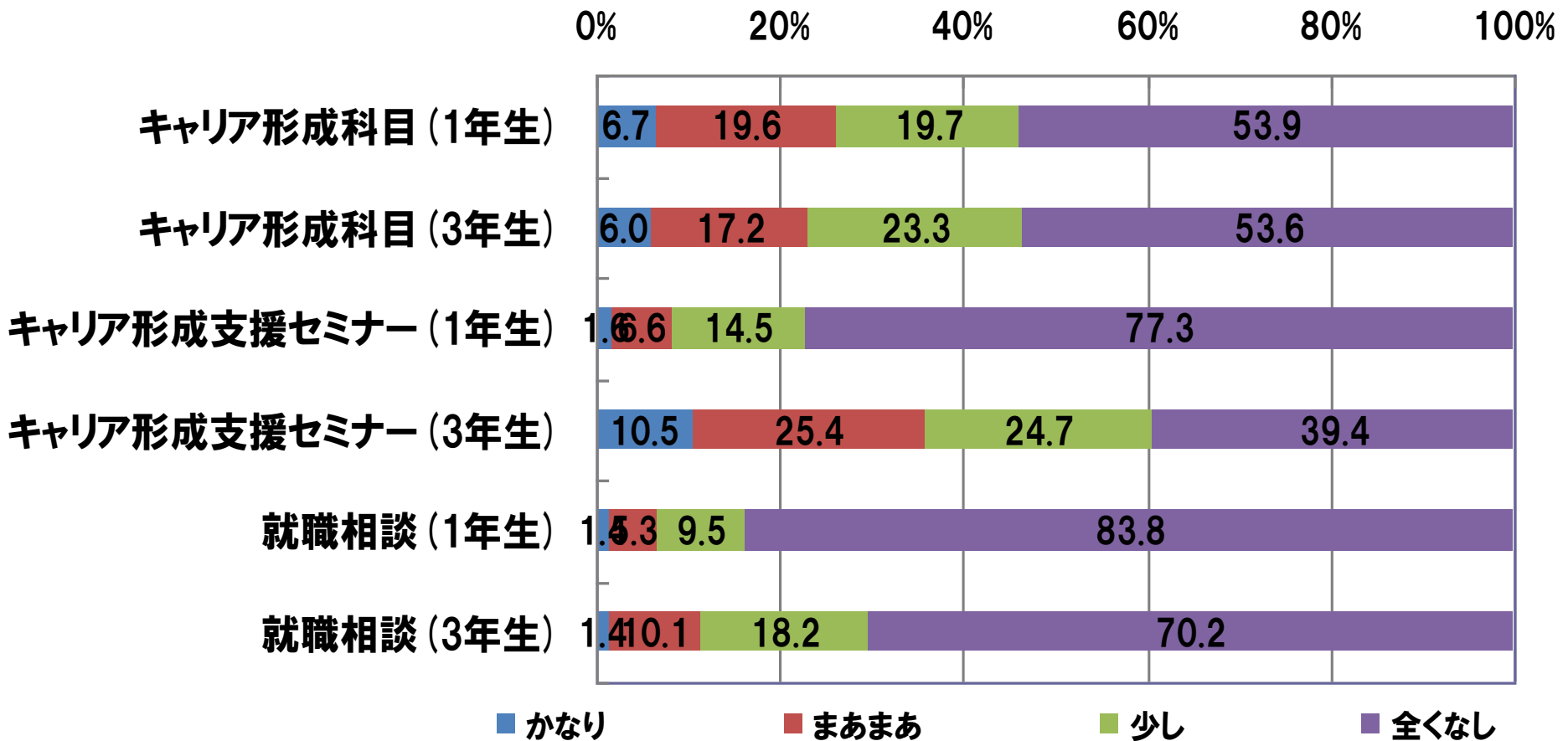
図12-2 将来見通しの実現への理解と実行 (見通しを持っている者対象)

人生設計の開始時期と 将来の見通しの理解・実行程度との関連



3. 大学におけるキャリア形成支援は
役立っているのか？

キャリア科目・キャリア形成支援への参加状況



就職相談する相手(Q18)

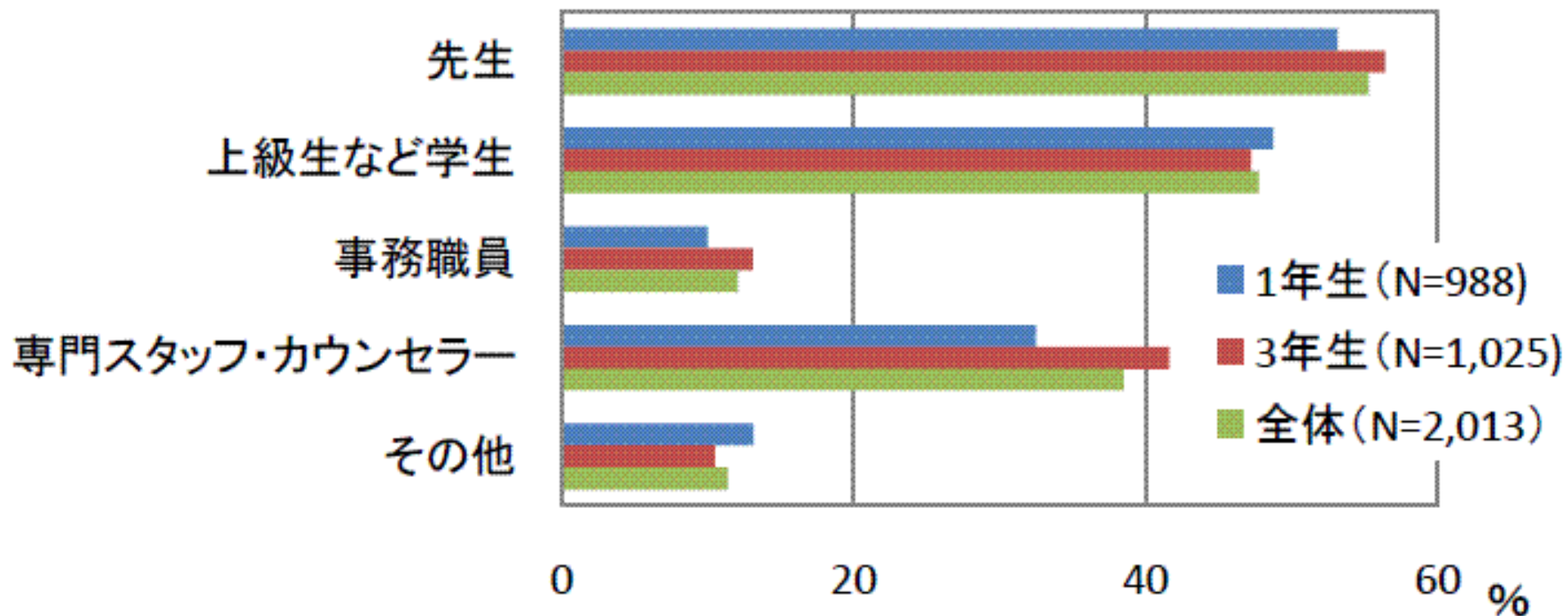
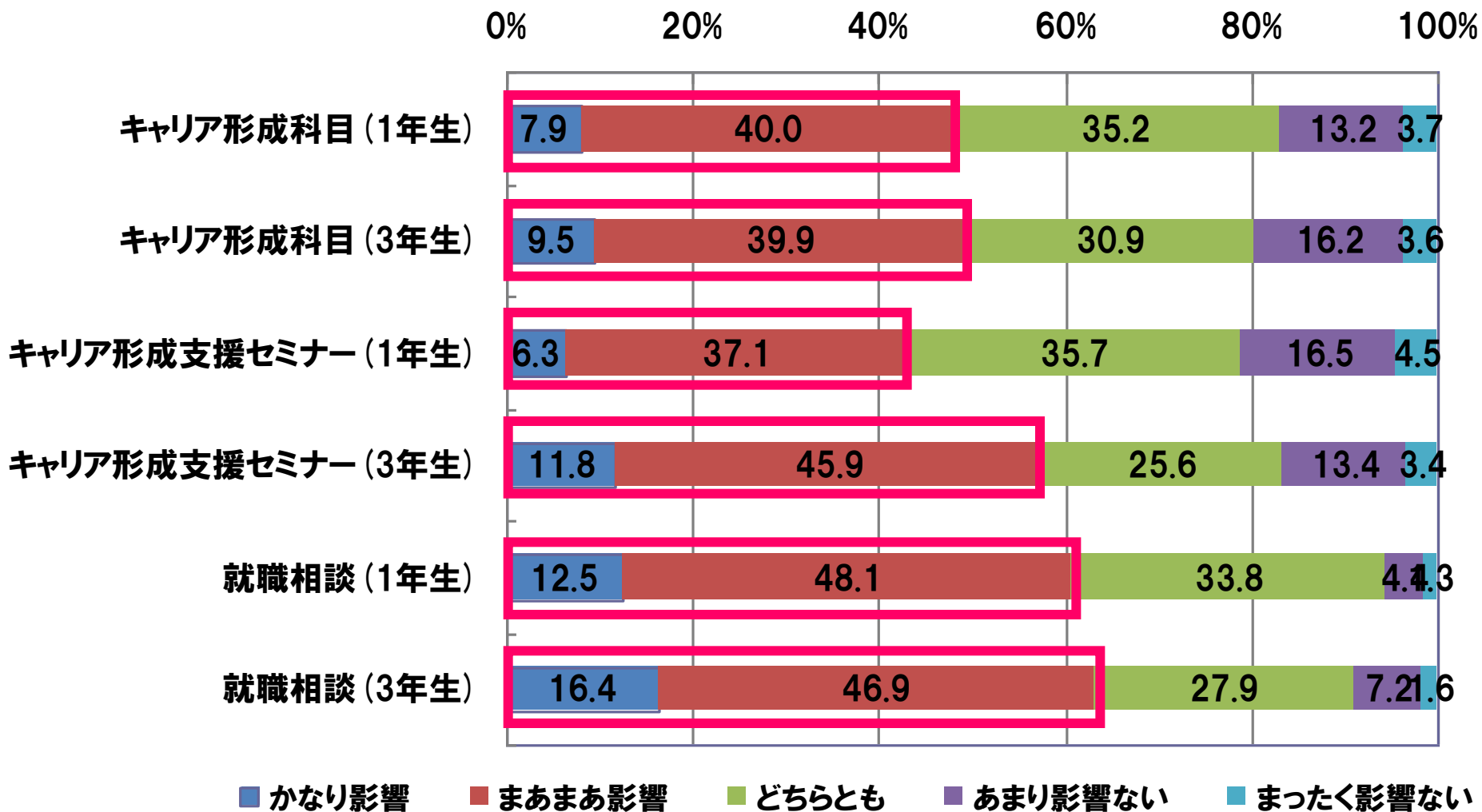


図18-2 就職相談の相手

キャリア教育・キャリア形成支援による 自分への影響



キャリア教育・キャリア形成支援参加と将来の見通しの有無との関連

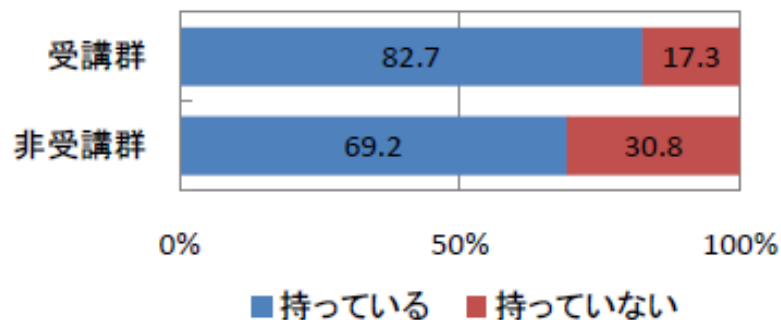


図5 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(1年生N=988)

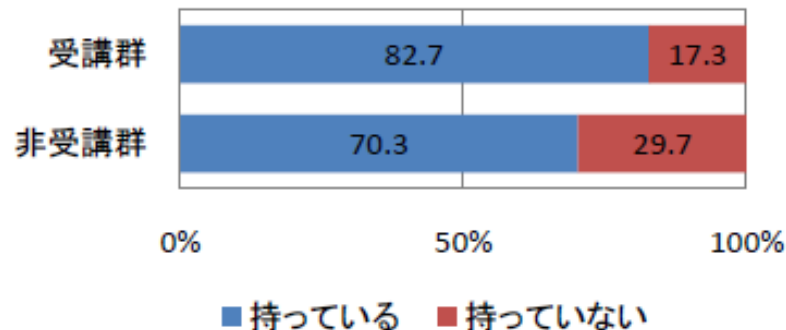


図6 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(3年生N=1025)

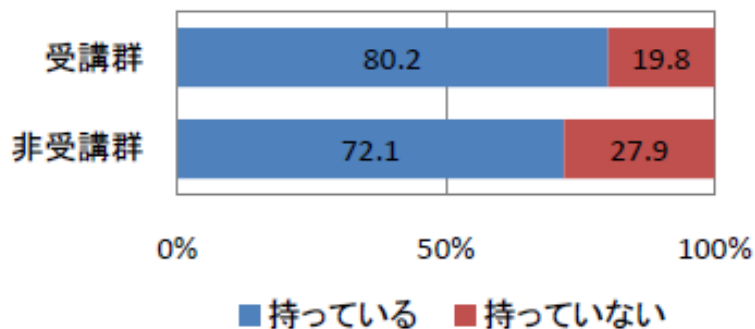


図7 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(1年生N=988)

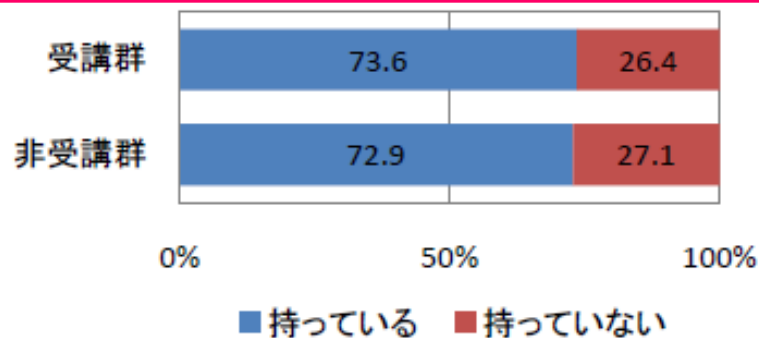


図8 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(3年生N=1025)

キャリア教育・キャリア形成支援参加と 将来の見通し理解・実行の程度との関連

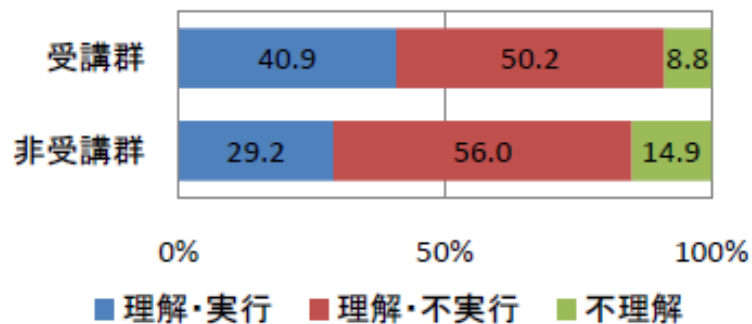


図9 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(1年生N=719)

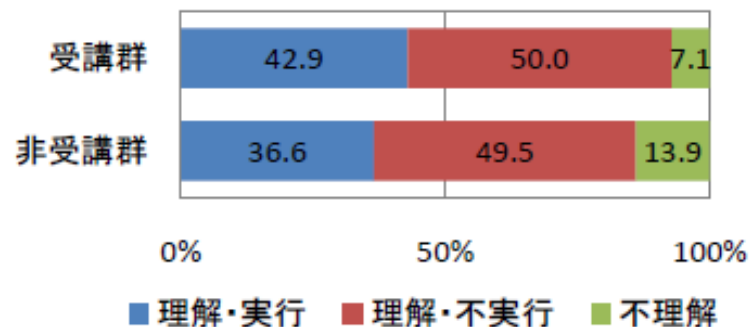


図10 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(3年生N=750)

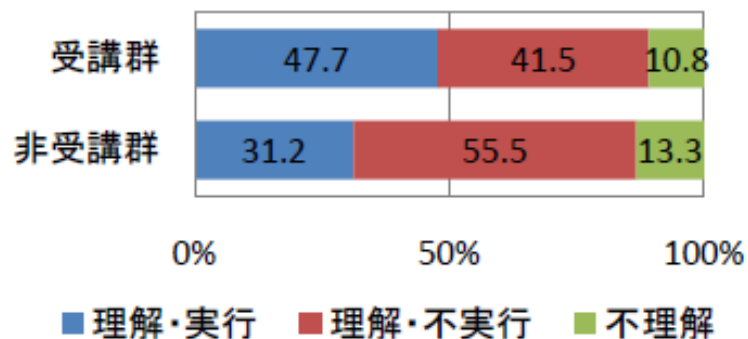


図11 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(1年生N=719)

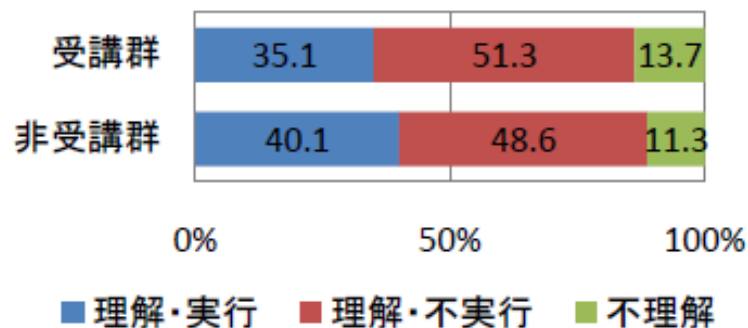
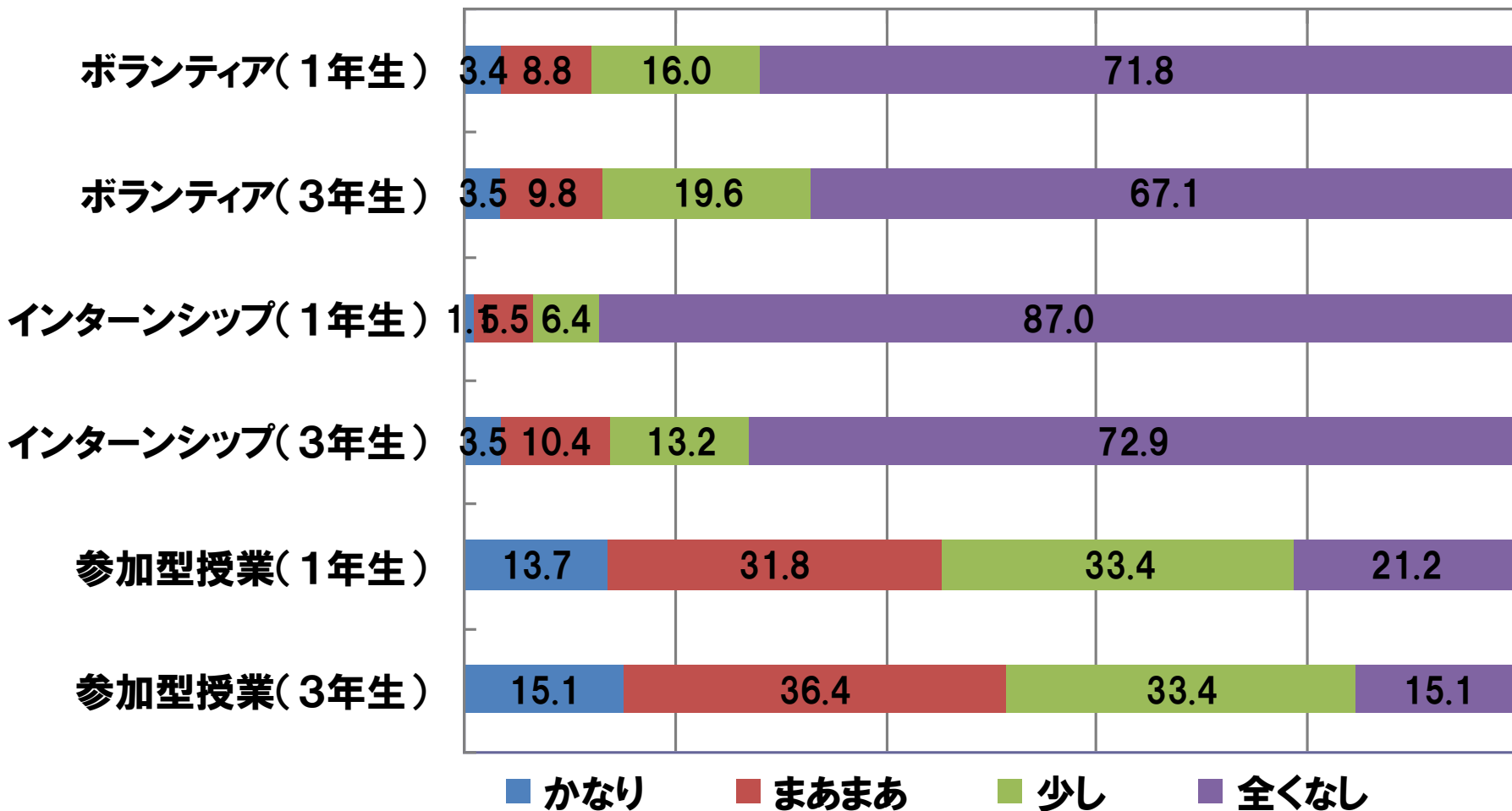


図12 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(3年生N=750)

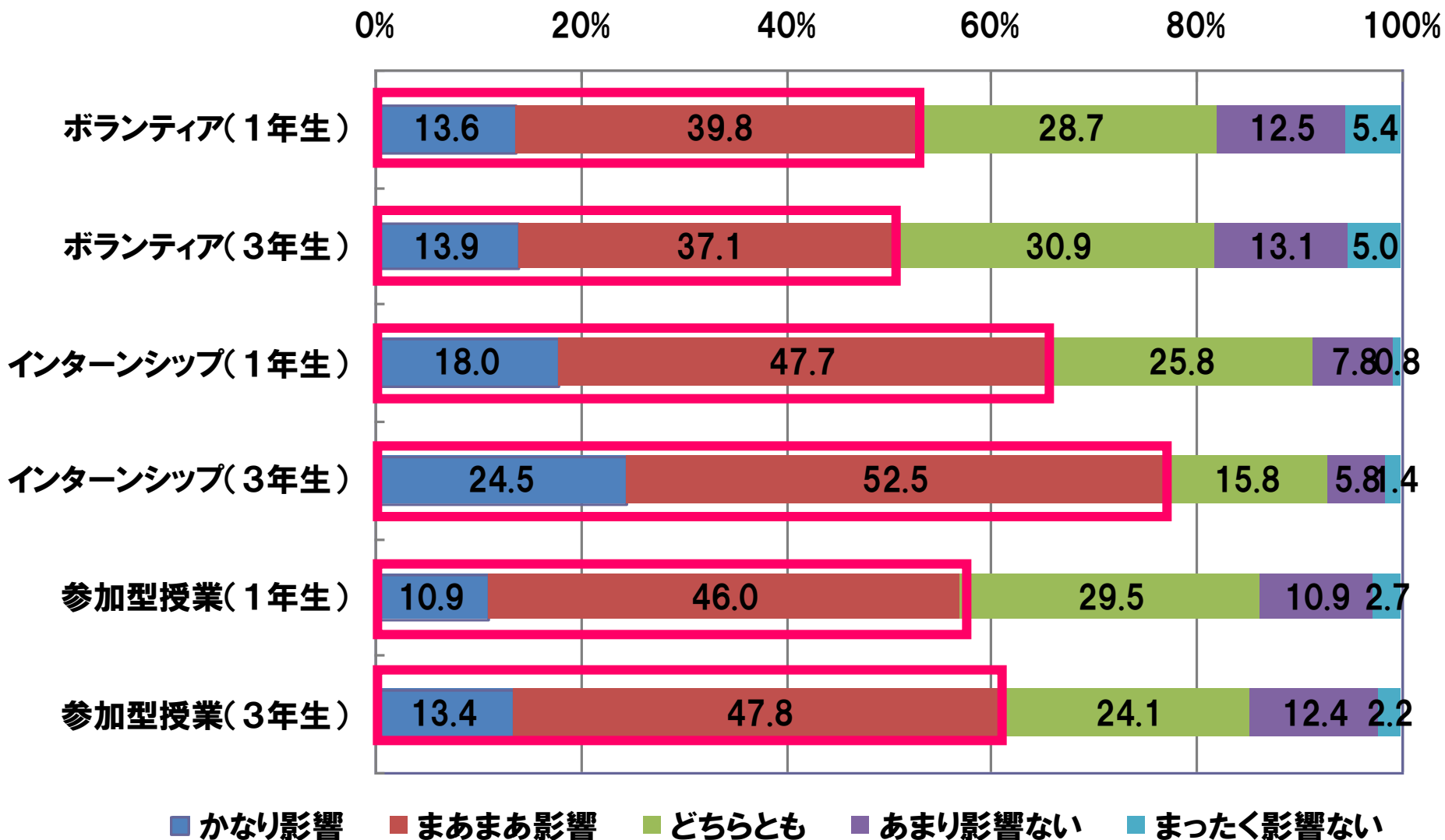
4. ボランティア・インターンシップ・参加型授業は
キャリア形成に役立っているのか？

大学でのボランティア・インターンシップ・参加型授業の経験(Q9-10, 15)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



ボランティア・インターンシップ・参加型授業が自分に与えた影響 (Q9-10)



ボランティア、インターンシップ参加と 将来の見通しの有無との関連

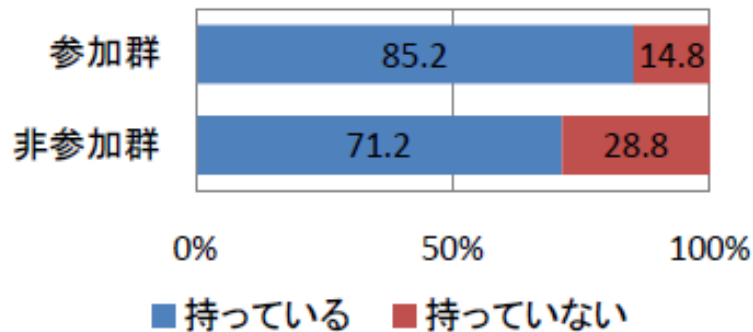


図13 ボランティア活動参加群・非参加群(入学後)(Q9-2)と将来の見通しの有無(Q12-1)との関連性(全体N=2013)

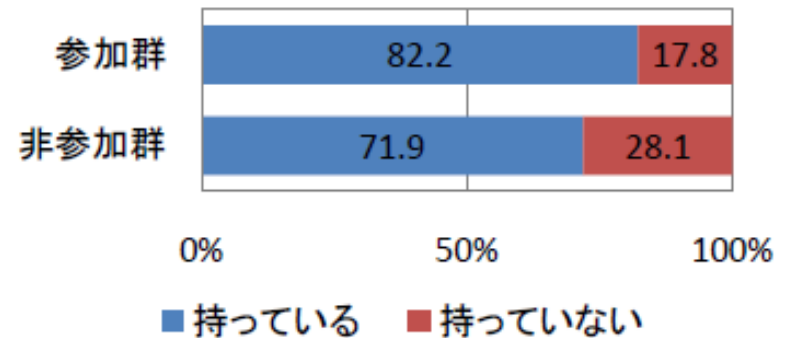


図14 インターンシップ活動参加群・非参加群(入学後)(Q10-2)と将来の見通しの有無(Q12-1)との関連性(全体N=2013)

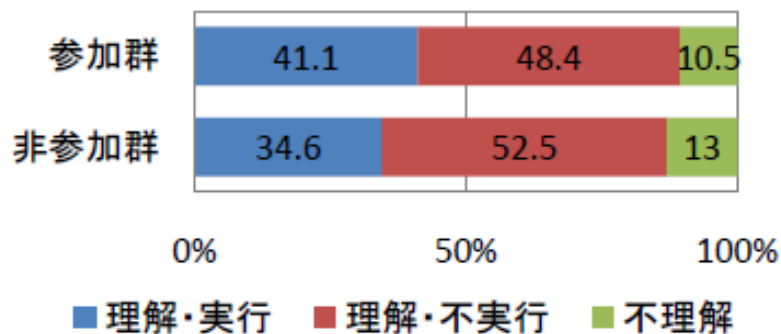


図15 ボランティア活動参加群・非参加群(入学後)(Q9-2)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(全体N=1496)

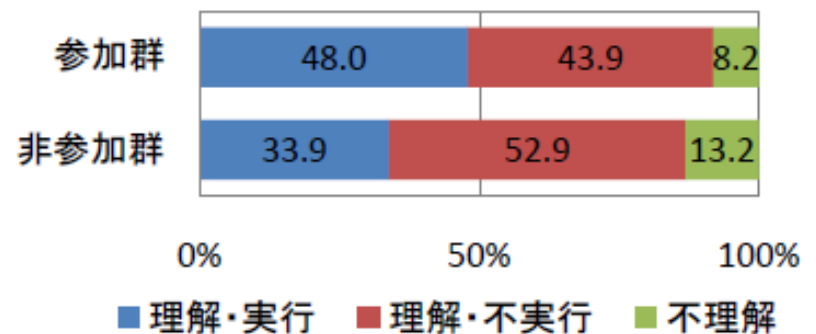
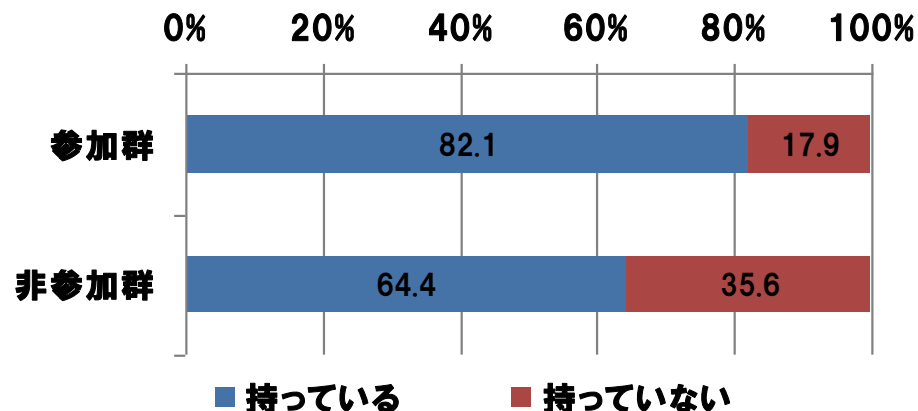
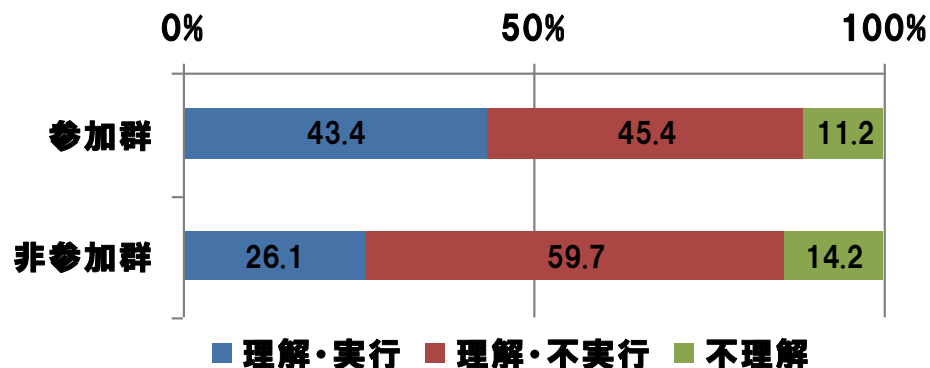


図16 インターンシップ活動参加群・非参加群(入学後)(Q10-2)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(全体N=1496)

参加型授業への参加と 将来の見通しの有無との関連



参加型授業参加群・非参加群(Q15-1)と将来の見通しの有無(Q12-1)との関連性(全体N=2013)



参加型授業参加群・非参加群(Q15-1)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-1)との関連性(全体N=1469)

5. 大学生生活の過ごし方と キャリア形成との関連は？

大学生生活の重点(Q7)

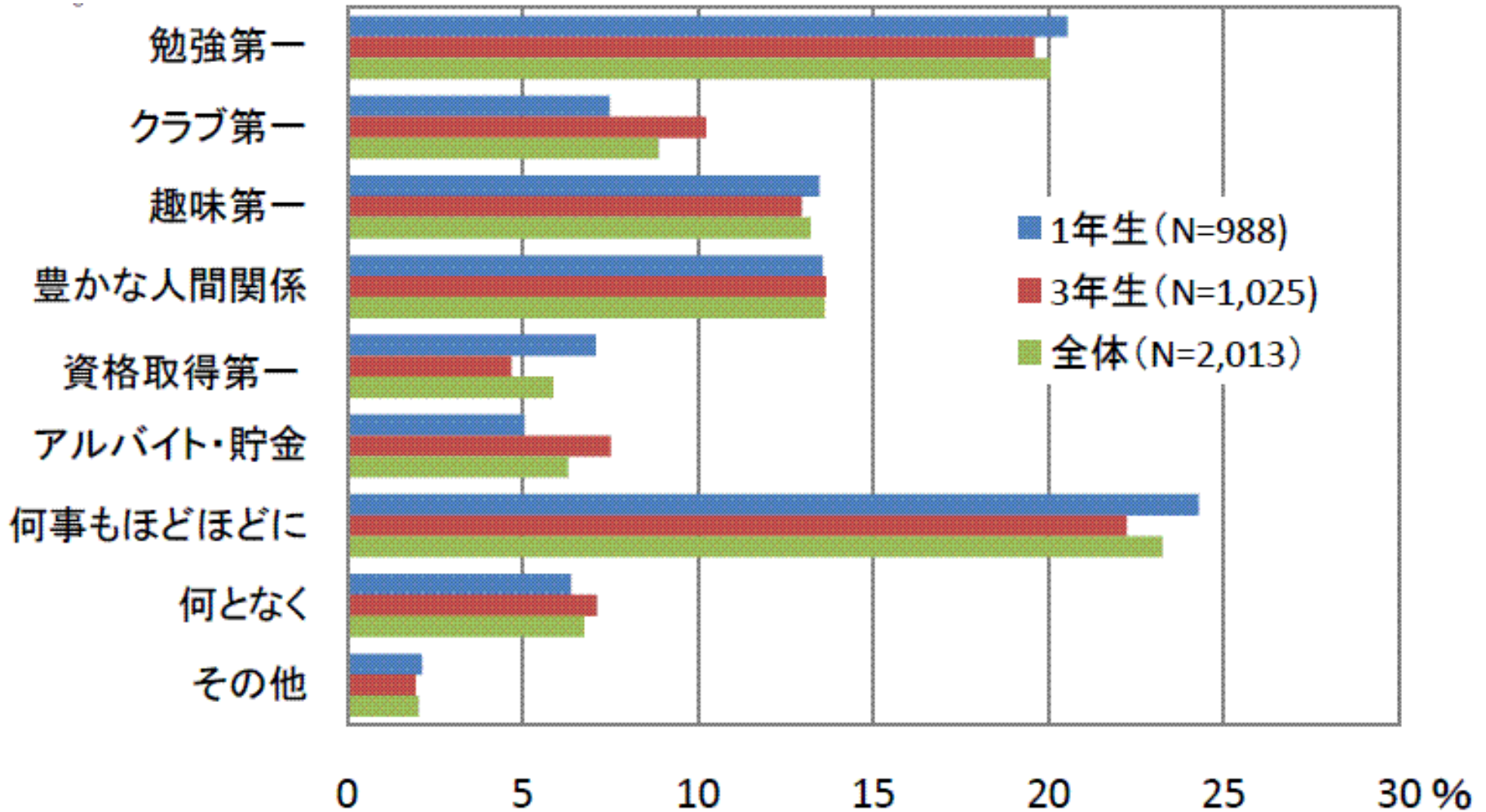


図7 大学生生活の重点

将来見通しの実現への理解・実行の程度と 大学生生活の重点との関連

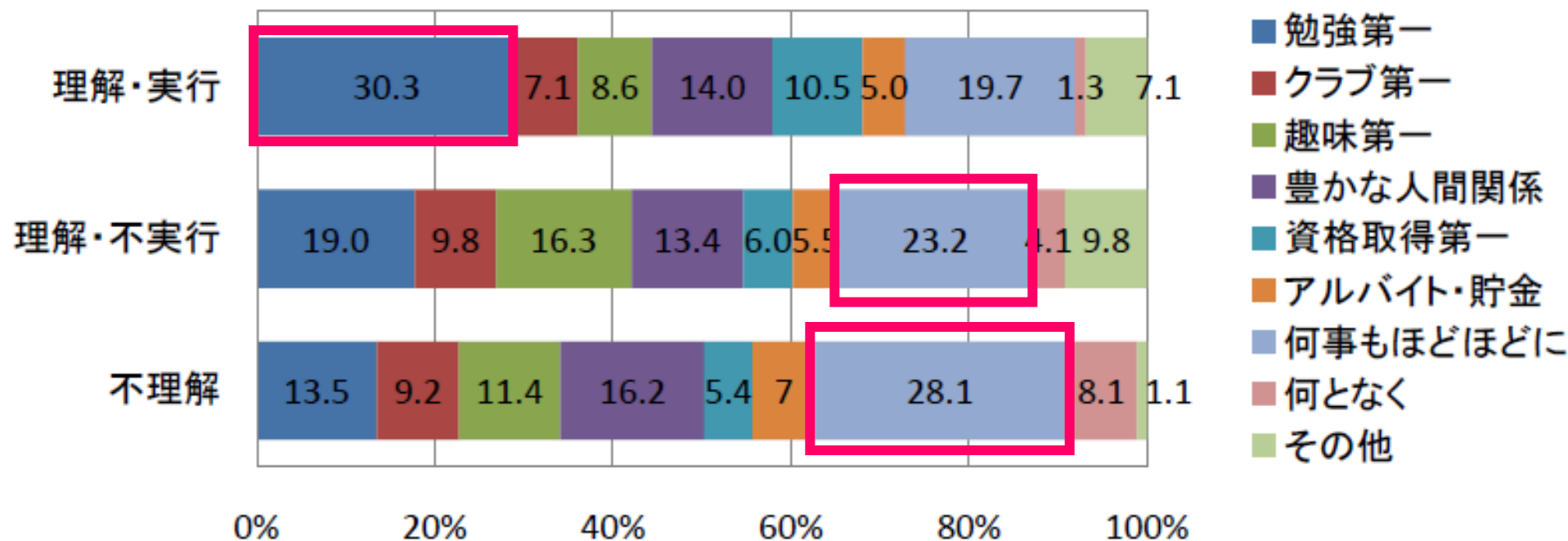
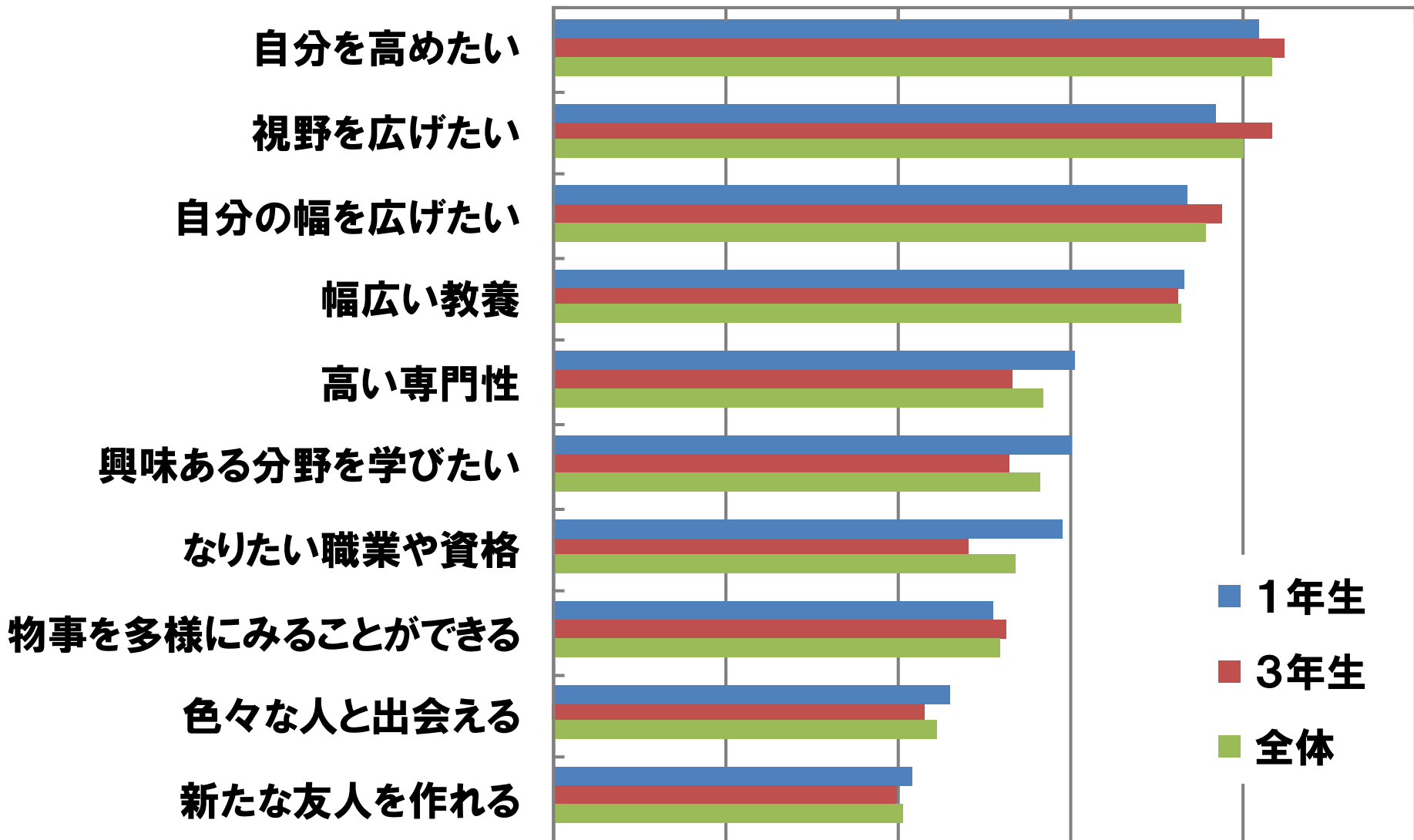


図17 将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)と大学生生活の重点(Q-7)との関連
(全体N=1469)

大学での学びの目的(Q2)

2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6



将来見通しの実現への理解・実行の程度と 参加型授業への参加との関連

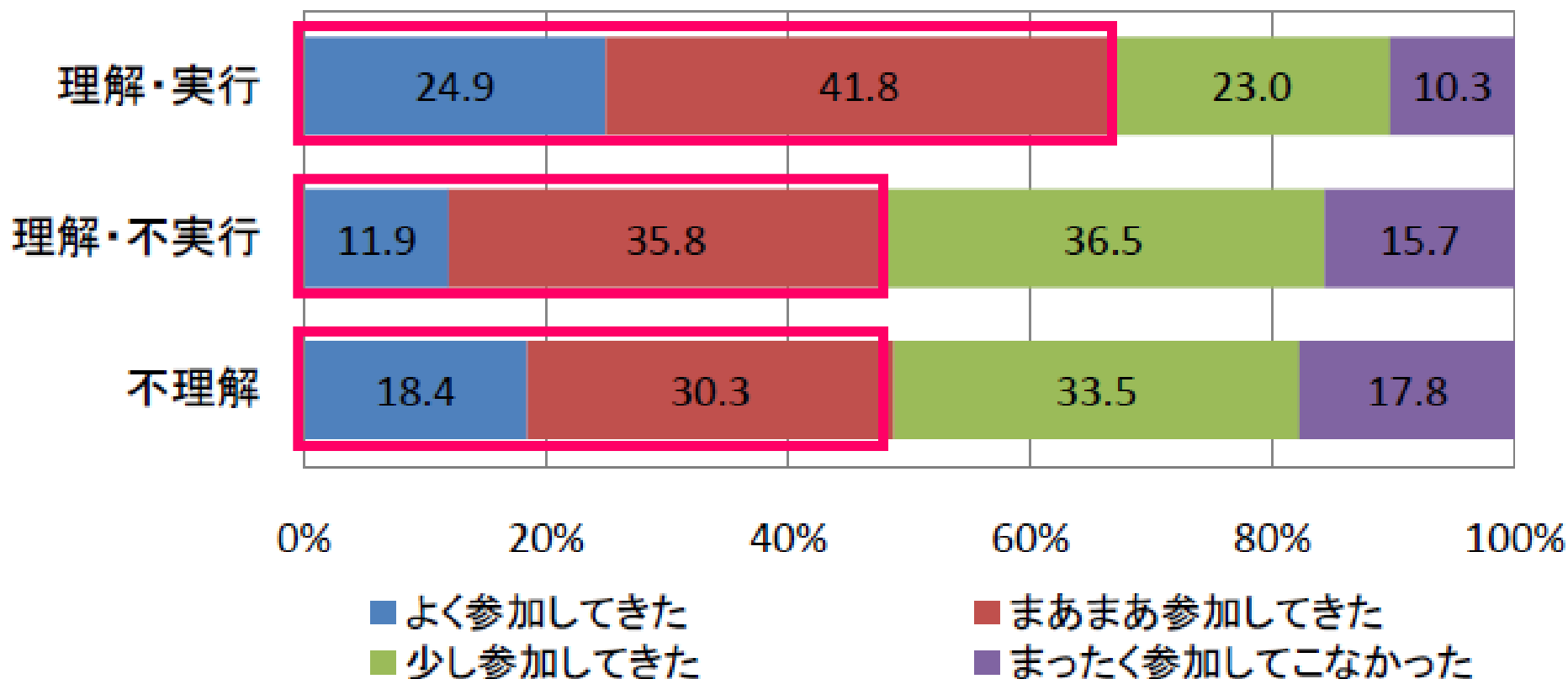


図18 将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)と参加型授業への参加(Q15-1)との関連(全体N=1469)

将来見通しの実現への理解・実行の程度と 1週間の過ごし方との関連

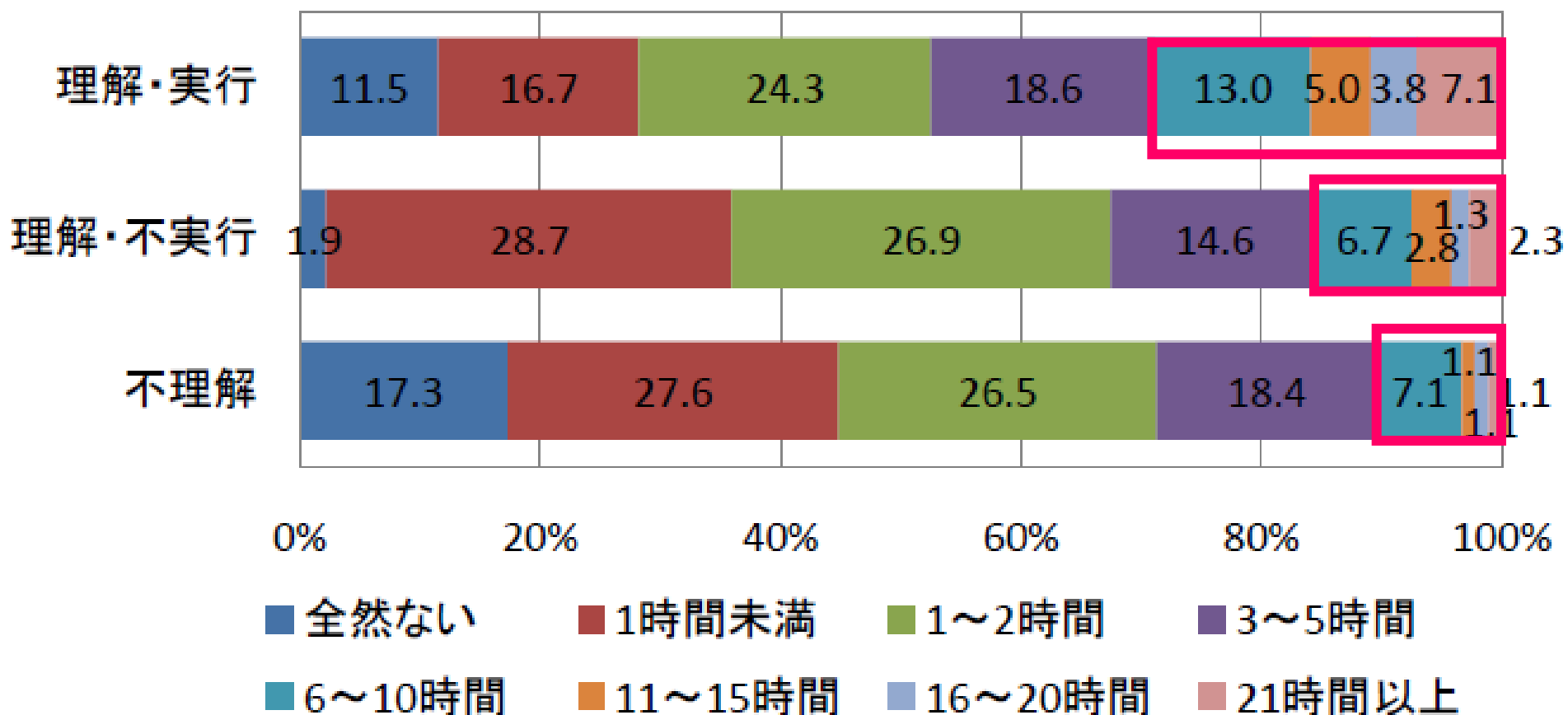
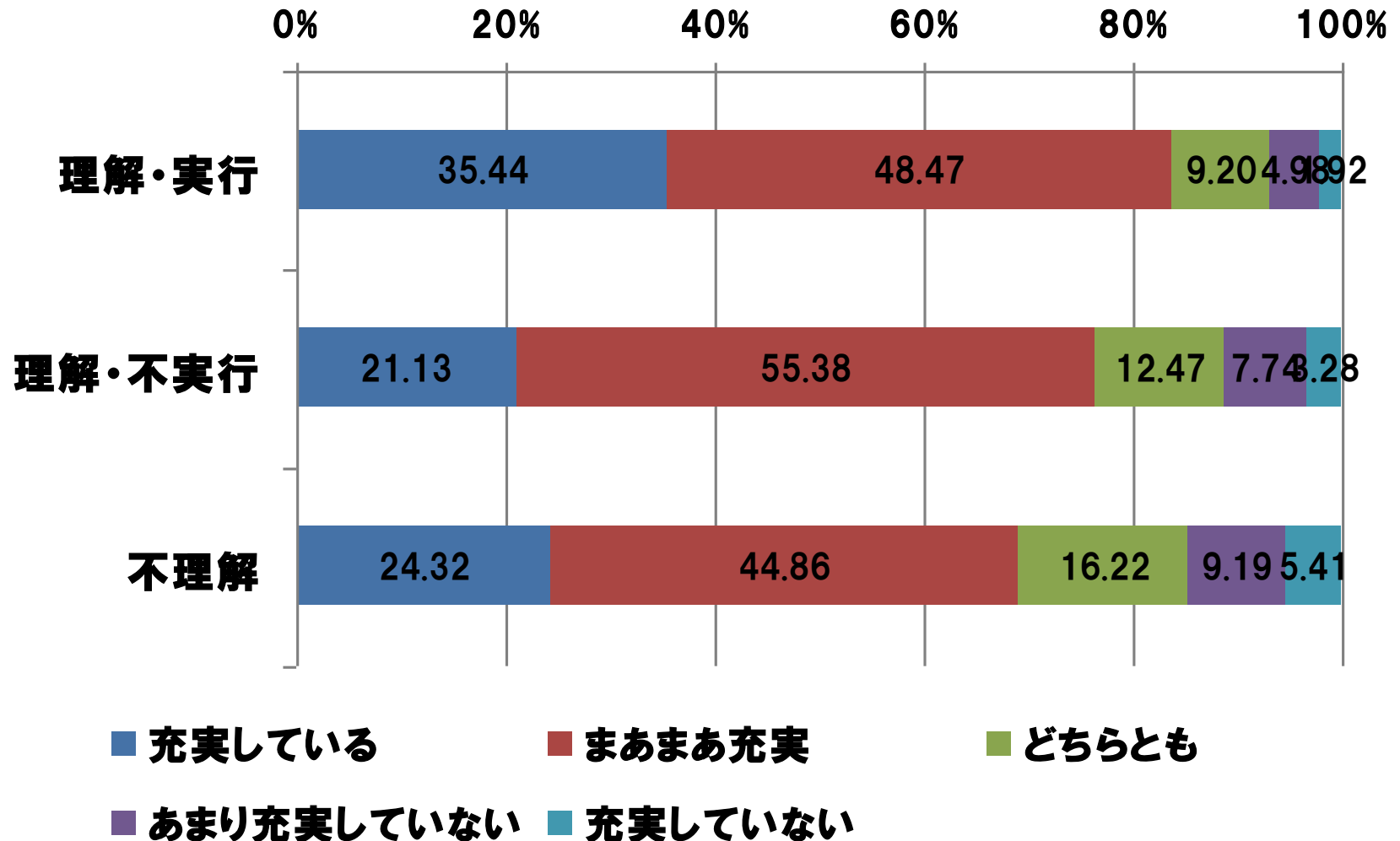


図19 将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)と1週間の過ごし方(Q5)の「授業とは関係のない勉強」との関連(全体N=1469)

将来見通しの実現への理解・実行の程度と 学生生活充実感との関連



理解・実行群とは？

- その特徴
 - 「勉強第一」という学生生活観を持っており、かつ将来とのつながりを見据えた勉強をしている
 - 主体的に学ぶ意欲の高い学生像
 - 学生生活により充実感を感じている
- その群の意味
 - 将来の見通しを持っており、それと現在の生活とを有機的に関連づけることができている、学生生活というものをキャリア形成において有意義なものとして組織化することができる。
 - 学生のキャリア形成に関する2種類の“ライフ”の形成がうまくいっている。

まとめ(Ⅲ)

- 1. 大学入学以前のキャリア教育の意義
 - 人生設計開始を早める: 早くからキャリア形成に取り組む学生は、そうでない者に比べて、将来の見通しを持ちその実現に向けて日々努力をしている。
- 2. 大学におけるキャリア教育の意義
 - 将来見通しを持つのみならず、将来見通し実現の可能性を高める。
 - 同時に、ボランティアやインターンシップ、参加型授業など、体験学習的な意味合いを含む授業においても同様の傾向。
- 3. キャリア形成の程度と日常の過ごし方との関連
 - 将来見通しの実現に対して理解・実行できている者の方が、主体的に勉強している傾向。
- 2種類のライフの形成には
 - 単に「大学で勉強する」ことが重要なのではなく、
 - 自らの将来、成長に向けて何が自分にとって重要であるかをいろいろ意味づけながら勉強することが重要なのだと考えられる。